

2021年度（令和3年度）
事業計画書



2021.3.19

目 次

	ページ
1. 法 人	5
2. 短 期 大 学	7
3. 専 攻 科	18
4. キリスト教活動	20
5. 研 究 活 動	23
6. 委 員 会 活 動	38
7. 広 報 活 動	54
8. 施設・設備・経費	58
9. 財務計算書 (5 か年推移)	61

和泉短期大学の沿革

1956年5月 (昭和31年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が、米国財団クリスチャン・チルドレンズ・ファン ドの援助のもとに バット博士記念養成所 を設立、収容施設従事者を対象とする 諸々の現任訓練講習会を開催、従事者の技能研鑽を授け、以って我が国養護事業 内容充実に力を尽くした。
1960年5月 (昭和35年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が我が国はじめての収容施設保母の養成を主眼 とした 玉川保母専門学院 を東京都世田谷区に開設、同時に 児童福祉研究所 を開 設して現任訓練及び研究事業を強化した。
1964年6月 (昭和39年)	玉川保母専門学院並びに児童福祉研究所を母体とした和泉短期大学開設並びに 学校法人クラーク学園の設立準備に着手した。
1965年4月 (昭和40年)	学校法人クラーク学園 設立認可、 眞鍋頼一氏 が理事長に就任した。同じく 和泉 短期大学 児童福祉科(定員40名)設立が認可され、 中島武夫氏 が学長に就任した。
1966年3月 (昭和41年)	幼稚園教諭二級普通免許状 取得のための正規の課程として認定された。
1971年11月 (昭和46年)	眞鍋頼一理事長逝去の為、理事 郷司浩平氏 が理事長に就任した。
1976年4月 (昭和51年)	中島武夫学長退任、後任として常務理事 野口敏雄氏 が学長に就任した。
4月	学生入学 定員250名 に変更認可された。
8月	全学神奈川県相模原市の 新校舎 に移転した。
1978年2月 (昭和53年)	郷司浩平理事長が退任、後任として理事 中島武夫氏 が理事長に就任した。
1981年2月 (昭和56年)	中島武夫理事長逝去の為、理事 伊藤忠利氏 が理事長に就任した。
7月	野口敏雄学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長代行として就任した。
1982年4月 (昭和57年)	北原歌子学長代行退任、後任として教授 花村春樹氏 が学長に就任した。
1985年4月 (昭和60年)	法人内に 和泉老人福祉専門学校 を開校した。(定員80名)
1986年6月 (昭和61年)	伊藤忠利理事長が退任、後任として理事 阪田勝三氏 が理事長に就任した。
1988年3月 (昭和63年)	和泉老人福祉専門学校が、厚生省より 介護福祉士養成校 としての指定認可を受 けた。(定員100名)
4月	短大児童福祉科で 社会福祉士国家試験受験資格 の指定科目の開設を届出た。
1990年4月 (平成2年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状 取得の課程として認可された。
1991年3月 (平成3年)	社会福祉主事任用資格 の科目の届出を行い、同資格を取得可能とした。

1992年2月 (平成4年)	保母養成課程が改訂され、学則変更を行って新しい保母養成課程として認定された。
4月	和泉老人福祉専門学校 of 名称変更を行い、 和泉福祉専門学校 とした。
9月	花村春樹学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長に就任した。
1995年4月 (平成7年)	北原歌子学長退任、後任として 阪田勝三理事長 が学長に就任した。
1996年4月 (平成8年)	阪田勝三理事長退任、後任として理事 平良氏 が理事長に就任した。 阪田勝三学長退任、後任として 讃岐和家氏 が学長に就任した。
1999年4月 (平成11年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。
2000年4月 (平成12年)	児童福祉科 of 名称変更を行い、 児童福祉学科 とした。
2001年4月 (平成13年)	男女共学制度 を導入した。
2002年4月 (平成14年)	讃岐和家学長退任、後任として教授 伊藤忠彦氏 が学長に就任した。
2006年5月 (平成18年)	学校法人クラーク学園 創立 50 周年記念式典 が行われた。
2008年3月 (平成20年)	(財)短期大学基準協会の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
6月	平良理事長 退任、後任として 伊藤忠彦学長 が理事長を兼任した。 (深町正信氏 が理事長に就任するまでの間)
10月	伊藤忠彦理事長 退任、後任として理事 深町正信氏 が理事長に就任した。
2010年3月 (平成22年)	和泉短期大学専攻科介護福祉専攻設置に伴い、和泉福祉専門学校を廃止した。
4月	和泉短期大学に 専攻科介護福祉専攻 を開設した。(定員 20名)
2013年4月 (平成25年)	学校法人クラーク学園 of 名称変更を行い、 学校法人和泉短期大学 とした。
2014年4月 (平成26年)	伊藤忠彦学長退任、後任として教授 佐藤守男氏 が学長に就任した。
2015年3月 (平成27年)	(財)短期大学基準協会の2回目の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
2016年5月 (平成28年)	法人創立 60 周年記念式典、祝賀会、記念講演を開催した。
2017年10月 (平成29年)	児童福祉研究室設置
2019年1月 (平成31年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。
2020年6月 (令和2年)	深町正信理事長 退任、後任として理事 伊藤忠彦氏 が理事長に就任した。

設置学校 学校法人和泉短期大学
 理事長 伊藤 忠彦 (いとう ただひこ)
 所在地：神奈川県相模原市中央区青葉 2-2-1
 学 長 佐藤 守男 (さとう もりお)

設置学科名	入学定員	収容定員
児童福祉学科 (2年制)	250名	500名
専攻科介護福祉専攻 (1年制)	20名	20名

建学の精神

キリスト教信仰に基づく教育と人格形成

教育理念

2016年2月24日教授会改訂

本学は、建学の精神であるキリスト教信仰に基づき、
スクールモットーである愛と奉仕を実践する人、
地域社会のあらゆる局面で積極的な貢献を成し得る人、
保育・福祉専門職として謙虚に学び続ける意志をもつ人への実力養成教育を授ける。

スクールモットー

愛と奉仕

「あなたがたの光を人々の前で輝かしなさい。」(聖書：マタイによる福音書第5章16節)

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

2020年3月9日教授会改訂

本学の建学の精神(キリスト教信仰に基づく教育と人格形成)、スクールモットー(愛と奉仕)に基づくカリキュラムを履修して、卒業に必要な所定以上の単位を修得し、下記の要件を満たす学生に対し、短期大学士(児童福祉学)の学位を授与します。

1. 保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、基礎学力、幅広い教養、礼節を身につけ、多世代にわたる人々の人権を尊重できる。
2. 保育・福祉に関する専門的な学修を通じて、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。
3. 保育・福祉の専門的な価値観、知識・技能を修得し、自ら考える力、自ら行動する力、コミュニケーション能力を身につけている。
4. 保育・福祉の専門職として多角的な視点を持ち、共生社会の実現に向けて主体的かつ自律的に学び続け、愛と奉仕の精神を實踐できる。

教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

2020年3月9日教授会改訂

本学は、Ⅰ教養、Ⅱ原理、Ⅲ知識・技能、Ⅳ実践の4科目群を配置しています。

Ⅰ教養は、キリスト教の精神を踏まえて、人々の権利を護り共に生きる人としての価値観を養うための科目

Ⅱ原理は、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕を実践する人間観を養うことができる科目

Ⅲ知識・技能は、子どもと子どもを取り巻く環境を知り、様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につけることができる科目

Ⅳ実践は、身につけた価値観・知識・技能を現場に即して実践し、共に成長する体験を積み重ねて学び直し、キャリア形成の基礎を培うことができる科目

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

2020年3月9日教授会改訂

【和泉短期大学が求める学生像】

和泉短期大学は、保育・福祉専門職として必要な価値観、知識・技能を修得し、建学の精神にもとづく愛と奉仕をもって、すべての人々が共に生きる社会の実現に貢献したいと考える人を求めています。

【入学希望者に期待される学習経験：児童福祉学科】

1. 高校内での保育・福祉に関する学び・経験（総合的な学習の時間、家庭科や社会科等における保育・福祉に関連する学び）の機会を得ること。
2. 保育・福祉現場等でのボランティアを積極的に経験すること。
3. 自己表現とコミュニケーションのスキル（聴く、話す、書く等）を修得すること。

【入学希望者に期待される学習経験：専攻科介護福祉専攻】

1. 社会福祉に関する科目の学びに力を入れて取り組むこと。
2. 高齢者施設、障がい児・者施設等でのボランティアを積極的に経験すること。
3. 対人援助に関する科目での、自己表現とコミュニケーションのスキル（傾聴、共感等）に関する学びに力を入れて取り組むこと。

1. 2021 年度学校法人和泉短期大学基本構想

理事長 伊藤 忠彦

建学の精神 【キリスト教信仰に基づく教育と人格形成】

スクールモットー 【愛と奉仕】 【「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」マタイによる福音書第 5 章 16 節】

建学の精神とスクールモットーに基づく教育の明確化

地域密着型の短期大学として地域連携活動の強化

ガバナンスとコンプライアンスの確立

大学を取り巻く環境

18 才人口の減少	大学進学率		事業活動収支 差額比率 支出超過	大学の離学者・進路変更	短期大学 進学者の減少
	大学	短期大学			
1992 年 205 万人 2021 年 114 万人 2040 年 80 万人	1992 年度 24.6% 2020 年度 54.1%	11.7% 4.2%	2019 年度 大学 37.7% 短大 70.2%	約 120,000 人 3.3% (経済的理由、学習意欲の喪失、 不本意入学、人間関係等) 非正規雇用の増加	専門学校への 進学者増加 年度 24.0%

2021 年度事業計画

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、新学期の 4 月 7 日に最初の「緊急事態宣言」の発令があり、本学はこれに先立ち、4 月 1 日～5 月 31 日まで臨時休講にしましたので、入学式を行うことができませんでした。全学生にはオリエンテーションを動画で配信、前期の教科書はすべて無償で提供、配布いたしました。6 月からは、オンライン授業を開始、延期されていた入学式を行い、6 月 8 日から 1 年生、2 年生ともに分散登校を開始しました。

前期は対面授業 8 回、オンライン授業 7 回、合計 15 回の授業を実施し、授業の不足日数分等は、文部科学省の指示に従い、学内での補習を不足日に替えることができました。

分散登校開始からは、チャペルアワーも毎週月曜日に実施できました。また、2 年生の 6 月～7 月の幼稚園実習、9 月の保育実習も文部科学省の指示に従い、日数を短縮し、不足分は学内の補習授業で補うことができました。

さて、2021 年度本法人は、建学の精神に「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」、スクールモットーに「愛と奉仕」を掲げ、乳幼児から高齢者にいたる、私たちの生涯に必要な、保育・福祉の担い手であり質の高い保育者であるエッセンシャルワーカーの養成・教育の事業にあたります。2021 年度は新チャプレンを迎え、前理事長の重点構想にありました、建学の精神を事業の柱に努めて参ります。

新型コロナウイルスの収束の見込みがない中でも教職員は一体となり、学校法人和泉短期大学寄附行為第 2 章、「福音主義基督教の信仰に基き、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行うことを目的とする」を本法人の目的・事業の務めとして果たして参ります。

コロナ禍の終焉が予測できない今日、地域密着型の短期大学として現場との関係を大切にしながら協働・連携を強化することが大切であると痛感しています。今まで以上に大学と地域の保育園、幼稚園、認定こども園、社会福祉施設等との連携を強化して、2021 年度も前年度の試みで経験を活かし、状況に応じて、改良、改変しつつ、学生本位の教育事業を進めていきたいと願っております。

私立学校法の改正により、2020 年度制定の第 2 次中期計画 15 のビジョンでガバナンスとコンプライアンスの確立を掲げています。新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない中で、ニューノーマル時代を切り拓くために理事長、学長、事務局長のリーダーシップの下に教育、研究、地域貢献の和泉短期大学の基本的使命を着実に果たして参ります。

法人事業計画

○理事会

2021年	5月	28日(金)	理事会(決算)	於：和泉短期大学
2021年	10月	23日(土)	理事会(予算骨子)	於：和泉短期大学
2022年	1月	28日(金)	理事会	於：和泉短期大学
2022年	3月	25日(金)	理事会(予算)	於：和泉短期大学

○評議員会

2021年	5月	28日(金)	評議員会(決算)	於：和泉短期大学
2021年	10月	23日(土)	評議員会(予算骨子)	於：和泉短期大学
2022年	3月	25日(金)	評議員会(予算)	於：和泉短期大学

○学内運営協議会

▶ 出席者：理事長、学長、副学長、チャプレン、教務部長、事務局長、学生部長、庶務ユニットリーダー

2021年	4月	7日(水)	4月	14日(水)	4月	21日(水)	4月	28日(水)
	5月	12日(水)	5月	19日(水)	5月	26日(水)	6月	2日(水)
	6月	9日(水)	6月	16日(水)	6月	23日(水)	6月	30日(水)
	7月	7日(水)	7月	14日(水)	7月	21日(水)	7月	28日(水)
	8月	4日(水)	8月	25日(水)	9月	1日(水)	9月	8日(水)
	9月	15日(水)	9月	22日(水)	9月	29日(水)	10月	6日(水)
	10月	13日(水)	10月	20日(水)	10月	27日(水)	11月	10日(水)
	11月	17日(水)	11月	24日(水)	12月	1日(水)	12月	8日(水)
	12月	15日(水)	12月	22日(水)				
2022年	1月	12日(水)	1月	19日(水)	1月	26日(水)	2月	2日(水)
	2月	9日(水)	2月	16日(水)	3月	2日(水)	3月	9日(水)
	3月	16日(水)	3月	23日(水)				

○法人行事

2021年	4月	12日(月)、4月	19日(月)	イースター礼拝(区分別)
	5月	10日(月)、5月	17日(月)	創立記念礼拝(区分別)
	5月	24日(月)、5月	31日(月)	ペンテコステ礼拝(区分別)
	10月	18日(月)		召天者記念礼拝
	11月	29日(月)		クリスマスツリー点火祭
	12月	11日(土)		クリスマス・コンサート
	12月	13日(月)		クリスマス礼拝
2022年	1月	6日(木)		新年礼拝
	2月	25日(金)		和泉スプリングコンサート

2.和泉短期大学

「2021年度事業計画」

学長 佐藤 守 男

和泉短期大学は今年5月で創立65周年を迎え、本学の卒業生は19,623名（2021年3月）となります。その卒業生のほとんどが、相模原市及び周辺自治体にある施設(保育所を含む)、幼稚園等で働いています。このように本学は「地域密着型」の短期大学であり、このコロナ禍にありましても、卒業生たちの多くは、エッセンシャルワーカーとして、素晴らしい働きをしてくれています。

さて、昨年度は2度の緊急事態宣言が発令されたこともあり、改めて和泉の教育の在り方について、問い直す良い機会となりました。教育の在り方は時代や社会の変化に応じて変わっていくものだと思うのですが、本学も、国から勧められていたデジタル化やICTを利用した取り組みを進めることができました。

しかし、本学は人と関わる専門職を養成する短期大学ですので、幅広い教養と専門的な知識・技術を修得し、倫理性のある「人づくり」をするためには、対面授業（面接授業）が大切であると判断し、コロナ禍にありましても分散登校をしながら、対面と遠隔を組み合わせた「ハイブリット型授業」を行うことにしました。今年度も世の中の変化に合わせてながら「ハイブリット型授業」を進めていく予定です。

また、今年度は3度目の認証評価にあたっています。十分に準備をして対応したいと思えます。そして、ここで指摘された課題につきましては、早急に対処したいと思っています。

これからの日本は少子高齢化が進む中、ますます多くの保育所、介護施設等が必要となってくることでしょう。それに伴って、働き手である保育士、幼稚園教諭、介護福祉士の養成を和泉短期大学は地域社会からより一層求められてくると思われます。

本学は、これらの状況を調査・分析し、「教育研究と地域貢献との連動」「教育の質保証の充実」等の教学面における改善・改革を進め、「地元密着型」「実力養成型」の短期大学として、また、相模原市の「地域の生涯教育の拠点」として、「質の高い教育」を目指しながら、「学生への支援」を一層強めて参りたいと思えます。

2021年度の主な取り組み

- 1) 認証評価への対応
- 2) 児童福祉学科の入学定員の適正化・見直し
- 3) 専攻科介護福祉専攻の存続のための検討
- 4) 教学 IR 体制の確立
 - ①IR 情報収集のための権限強化
 - ②教育情報の公開
- 5) 外部評価の充実
 - ①高等学校、保育所、幼稚園、認定こども園、自治体、産業界との協議体制確立
 - ②3つのポリシー、自己点検評価、ディプロマサプレメント等の外部評価を実施
- 6) FD&SD の高度化
- 7) 研究活動の強化
 - ①若手教員への奨励
 - ②科学研究費への取り組み強化
- 8) 教育活動の強化
 - ①キリスト教信仰に基づく教育の強化
 - ②学修成果の把握（アセスメント・テスト等による調査測定の充実）
 - ③初年次教育の強化
 - ④リメディアル教育の検討
 - ⑤「履修系統図」と「ナンバリング」の検討
 - ⑥「成績評価基準」の設定（素点評価と GPA 評価）
 - ⑦「学生による授業評価」の実施時期の変更
 - ・授業回数 5～7 回目に実施し、学生の評価をその授業内に反映させる
 - ⑧教員間の授業参観による授業評価の改善
- 9) 学生への支援
 - ①サークル活動・学園祭の再建
 - ②健康管理センターの強化
 - ③就職支援の改善
- 10) 地域連携活動の強化
 - ①児童福祉研究室の運営強化
 - ・「すまいいい」と協力し、相談支援活動を検討
 - ②地域子育て支援プログラム「はっぴい」「すまいいい」の充実
 - ③コンサート活動の充実
 - ④和泉保育園、バット博士記念ホームとの連携強化

(1) 学事予定

2021年	4月	1日(木)	入学式
		2日(金)	1年前期オリエンテーション、アセスメントテスト①(区分別) 2年前期始業礼拝、前期オリエンテーション、グループミーティング(区分別)
		3日(土)	1年教科書販売、健康診断 2年前期始業礼拝、前期オリエンテーション、グループミーティング(区分別) 専攻科前期オリエンテーション、教科書販売、健康診断 教職員健康診断
		5日(月)	1年前期オリエンテーション、アセスメントテスト①(区分別) 2年教科書販売、健康診断 専攻科前期授業開始
		6日(火)	1年新入生研修会、2年前期授業開始
		7日(水)	1年前期授業開始
		12日(月)	イースター礼拝(区分別)
		19日(月)	イースター礼拝(区分別)
		24日(土)	ミニオープンキャンパス①
5月		8日(土)	ミニオープンキャンパス②
		10日(月)	創立記念礼拝(区分別) 2021年度第1回創立記念フェア(区分別)
		11日(火)	高校教員対象進学説明会①
		12日(水)	高校教員対象進学説明会② 2021年度第1回創立記念フェア(区分別)
		15日(土)	創立記念日
		19日(水)	実習指導連絡会(幼稚園)
		22日(土)	はっぴい①
		23日(日)	ミニオープンキャンパス③、④
		24日(月)	ペンテコステ礼拝(区分別)
		31日(月)	ペンテコステ礼拝(区分別)
6月		5日(土)	ミニオープンキャンパス⑤
		7日(月)	2年実習(幼稚園)〈6月25日(金)まで〉 専攻科介護実習Ⅰ〈6月14日(月)まで〉
		9日(水)	1年避難・防災訓練、感謝の祈り
		12日(土)	はっぴい②
		19日(土)	ミニオープンキャンパス⑥、⑦
		21日(月)	1年幼稚園保育体験準備(全教員)
		28日(月)	1年幼稚園保育体験(全教員)、2年実習予備日
7月		1日(木)	かながわ高齢者福祉研究大会
		5日(月)	2021年度第2回サマーフェア(区分別)
		7日(水)	2021年度第2回サマーフェア(区分別)
		10日(土)	ミニオープンキャンパス⑧、⑨、はっぴい③
		12日(月)	前期終了感謝礼拝
		13日(火)	1年前期授業終了
		14日(水)	1年前期定期試験①、ナイトミニオープンキャンパス①
		15日(木)	1年前期定期試験②
		16日(金)	1年前期定期試験③ 専攻科月曜日分授業日、前期授業終了
		19日(月)	1年前期定期試験④ 専攻科介護実習Ⅰ(訪問介護)〈7月29日(木)まで〉
		20日(火)	1年前期定期試験⑤

7月	21日(水)	1年夏期休業開始(8月29日(日)まで)
	24日(土)	ミニオープンキャンパス⑩、⑪
	30日(金)	おもちゃインストラクター養成講座
	31日(土)	ミニオープンキャンパス⑫、⑬
8月	2日(月)	専攻科前期定期試験①
	3日(火)	専攻科前期定期試験②
	4日(水)	専攻科前期定期試験③
	5日(木)	専攻科前期定期試験④
	6日(金)	1年成績報告書締切日、2年前期授業終了 専攻科前期定期試験⑤
	7日(土)	2年夏期休業開始(8月22日(日)まで) 専攻科夏期休業開始(8月29日(日)まで) 専攻科成績報告書締切日 ミニオープンキャンパス⑭、⑮
	21日(土)	ミニオープンキャンパス⑯、⑰
	22日(日)	2年夏期休業終了
	23日(月)	2年前期定期試験①
	24日(火)	1年一般教養試験対策講座(26日(木)まで) 2年前期定期試験②
	25日(水)	2年前期定期試験③
	26日(木)	2年前期定期試験④、専攻科i日程①入試
	27日(金)	2年前期定期試験⑤
	28日(土)	普通救命講習Ⅲ(幼児・乳児・新生児) ミニオープンキャンパス⑱、⑲
	29日(日)	1年、専攻科夏期休業終了
	30日(月)	1年、専攻科後期始業礼拝、オリエンテーション、 前期再試験発表
9月	1日(水)	専攻科前期再試験(3日(金)まで)
	3日(金)	2年成績報告書締切日
	4日(土)	ミニオープンキャンパス⑳
	6日(月)	1年前期再試験(8日(水)まで) 2年実習(保育所・施設)(9月22日(水)まで) 専攻科後期授業開始
	8日(水)	相模原市内高校長との教育研究会
	11日(土)	総合型選抜Ⅰ期9月①
	13日(月)	1年後期授業開始
	15日(水)	ナイトミニオープンキャンパス②
	18日(土)	総合型選抜Ⅰ期9月②、はっぴい④
	20日(月)	1年アセスメントテスト②
	24日(金)	2年実習予備日
	25日(土)	2年後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、 前期再試験発表
	27日(月)	2年後期授業開始
	29日(水)	2年前期再試験(10月1日(金)まで)、専攻科実習連絡会 ナイトミニオープンキャンパス③
10月	2日(土)	総合型選抜Ⅱ期10月①
	6日(水)	ナイトミニオープンキャンパス④
	13日(水)	2021年度第3回サンクスギビングフェア
	16日(土)	総合型選抜Ⅱ期10月②、専攻科i日程②入試 はっぴい⑤
	18日(月)	召天者記念礼拝
	20日(水)	ナイトミニオープンキャンパス⑤

	10月	27日 (水)	ナイトミニオープンキャンパス⑥
		29日 (金)	学生祭週間〈11月1日(月)まで〉
		30日 (土)	いずみ祭〈10月31日(日)まで〉
	11月	1日 (月)	専攻科介護実習Ⅱ〈11月26日(金)まで〉
		6日 (土)	学校推薦型選抜[指定校Ⅰ期、公募、家族、専門]、総合型選抜Ⅲ期11月①
		12日 (金)	専攻科帰校日
		17日 (水)	実習指導連絡会(保育所/施設)
		20日 (土)	ミニオープンキャンパス②①、はっぴい⑥
		27日 (土)	総合型選抜Ⅲ期11月②、専攻科A日程入試
		29日 (月)	クリスマスツリー点火祭
	12月	1日 (水)	専攻科介護協学力評価テスト
		4日 (土)	入学前教育①
		6日 (月)	アドベント礼拝
		8日 (水)	2021年度第4回クリスマスフェア ナイトミニオープンキャンパス⑦
		11日 (土)	はっぴい⑦、はっぴいクリスマスコンサート
		13日 (月)	クリスマス礼拝
		18日 (土)	総合型選抜Ⅳ期12月、学校推薦型選抜[指定校Ⅱ期]
		20日 (月)	1年後期定期試験①
		21日 (火)	1年後期定期試験② 2年後期授業中断、冬期休業開始〈2022年1月6日(木)まで〉 専攻科後期授業中断、冬期休業開始〈2022年1月5日(水)まで〉
		22日 (水)	1年後期定期試験③
		23日 (木)	1年後期定期試験④
		24日 (金)	1年後期定期試験⑤
		27日 (月)	1年後期授業中断、冬期休業開始〈2022年1月6日(木)まで〉
2022年	1月	5日 (水)	専攻科冬期休業終了
		6日 (木)	新年礼拝、1年、2年冬期休業終了 専攻科国家試験対策学内テスト(午後)
		7日 (金)	後期授業再開 1年後期授業終了 ナイトミニオープンキャンパス⑧
		11日 (火)	1年実習(保育所)〈1月26日(水)まで〉
		14日 (金)	2年後期授業終了
		15日 (土)	総合型選抜Ⅴ期1月、社会人特別選抜入試 専攻科B日程入試、入学前教育②、はっぴい⑧
		17日 (月)	2年後期定期試験①
		18日 (火)	2年後期定期試験②
		19日 (水)	1年成績報告書締切日、2年後期定期試験③ 専攻科国家試験対策講座〈21日(金)まで〉
		20日 (木)	2年後期定期試験④
		21日 (金)	2年後期定期試験⑤
		22日 (土)	和泉プレカレッジ
		31日 (月)	1年実習授業、後期再試験発表 専攻科後期定期試験①
	2月	1日 (火)	専攻科後期定期試験②
		2日 (水)	1年実習授業 2年追再実習〈2月24日(木)まで〉 2年追再実習追加分(幼稚園)〈4日(金)まで〉 専攻科後期定期試験③

2月	3日(木)	入学前ピアノレッスン① 専攻科後期定期試験④
	4日(金)	専攻科後期定期試験⑤
	5日(土)	はっぴい⑨、個別相談会②
	7日(月)	1年現場実習(施設)(2月24日(木)まで)
	8日(火)	2年成績報告書締切日
	9日(水)	入学前教育③
	12日(土)	総合型選抜V期2月、専攻科C日程入試
	14日(月)	2年後期再試験発表
	15日(火)	専攻科成績報告書締切日
	17日(木)	入学前ピアノレッスン②
	18日(金)	2年後期再試験
	21日(月)	専攻科後期再試験発表
	25日(金)	2年追再実習者再試験、専攻科後期再試験 和泉スプリングコンサート
	26日(土)	一般選抜
	28日(月)	1年実習授業(1時限)、1年後期再試験(3月1日(火)まで)
3月	2日(火)	おもちゃインストラクター養成講座 2022年度全教員打合せ会
	3日(木)	入学前ピアノレッスン③
	5日(土)	総合型選抜V期3月、専攻科D日程入試 はっぴい⑩
	7日(月)	2年卒業感謝礼拝、卒業証書・学位記授与式予行練習 専攻科修了感謝礼拝、修了証書授与式予行練習
	8日(火)	2年卒業証書・学位記授与式、専攻科修了証書授与式
	9日(水)	FD・SD研修会、入学前教育④
	12日(土)	ミニオープンキャンパス⑳、㉓
	26日(土)	ミニオープンキャンパス㉔、㉕

(2) 実習

2021年	6月	7日(月)	～6月25日(金)	2年幼稚園
	6月	7日(月)	～6月14日(月)	専攻科介護実習Ⅰ
	7月	19日(月)	～7月29日(木)	専攻科介護実習Ⅰ(訪問介護)
	9月	6日(月)	～9月22日(水)	2年保育所・施設
	11月	1日(月)	～11月26日(金)	専攻科介護実習Ⅱ
2022年	1月	11日(火)	～1月26日(水)	1年保育所
	2月	2日(水)	～2月24日(木)	2年追再実習
		2日(水)	～2月4日(金)	2年追再実習追加分(幼稚園)
		7日(月)	～2月24日(木)	1年施設

2022 年度 児童福祉学科 入試日程

・総合型選抜Ⅰ期 9月①

2021年5月1日(土)よりWebサイトにて予約受付	予 約
2021年 9月8日(水)	予 約 期 限
2021年 9月1日(水)～9月8日(水)16時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2021年9月11日(土) 午前・午後	1回目面談日
2021年9月13日(月)	出願許可判定教授会
2021年9月14日(火)	出願許可通知発送日
2021年10月1日(金)～10月8日(金) 8日間	出願手続期間
2021年11月6日(土)	合否判定教授会(追認)
2021年11月1日(月)	合格通知発送日
2021年11月3日(水)～11月17日(水) 15日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅰ期 9月②

2021年5月1日(土)よりWebサイトにて予約受付	予 約
2021年 9月15日(水)	予 約 期 限
2021年 9月1日(水)～9月15日(水)16時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2021年9月18日(土) 午前・午後	2回目面談日
2021年9月20日(月)	出願許可判定教授会
2021年9月21日(火)	出願許可通知発送日
2021年10月1日(金)～10月8日(金) 8日間	出願手続期間
2021年11月6日(土)	合否判定教授会(追認)
2021年11月1日(月)	合格通知発送日
2021年11月3日(水)～11月17日(水) 15日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅱ期 10月①

2021年5月1日(土)よりWebサイトにて予約受付	予 約
2021年 9月29日(水)	予 約 期 限
2021年 9月20日(月)～9月29日(水)16時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2021年10月2日(土) 午前	1回目面談日
2021年10月4日(月)	出願許可判定教授会
2021年10月5日(火)	出願許可通知発送日
2021年10月7日(木)～10月15日(金) 9日間	出願手続期間
2021年11月6日(土)	合否判定教授会(追認)
2021年11月1日(月)	合格通知発送日
2021年11月3日(水)～11月17日(水) 15日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅱ期 10月②

2021年5月1日(土)よりWebサイトにて予約受付	予 約
2021年 10月13日(水)	予 約 期 限
2021年 10月11日(月)～10月13日(水) 16時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2021年10月16日(土) 午前	2回目面談日
2021年10月18日(月)	出願許可判定教授会
2021年10月19日(火)	出願許可通知発送日
2021年10月21日(木)～10月29日(金) 9日間	出願手続期間
2021年11月6日(土)	合否判定教授会(追認)
2021年11月1日(月)	合格通知発送日
2021年11月3日(水)～11月17日(水) 15日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅲ期 11月①

2021年5月1日(土)よりWebサイトにて予約受付	予 約
2021年 10月30日(土)	予 約 期 限
2021年 10月25日(月)～10月30日(土) 16時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2021年11月6日(土) 午前	1回目面談日
2021年11月6日(土)	出願許可判定教授会
2021年11月7日(日)	出願許可通知発送日
2021年11月8日(月)～11月15日(月) 8日間	出願手続期間
2021年11月24日(水)	合否判定教授会
2021年11月24日(水)	合格通知発送日
2021年11月25日(木)～12月2日(木) 8日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅲ期 11月②

2021年5月1日(土)よりWebサイトにて予約受付	予 約
2021年 11月19日(金)	予 約 期 限
2021年 11月8日(月)～11月19日(金) 16時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2021年11月27日(土) 午前	2回目面談日
2021年11月29日(月)	出願許可判定教授会
2021年11月30日(火)	出願許可通知発送日
2021年12月2日(木)～12月6日(月) 5日間	出願手続期間
2021年12月11日(土)	合否判定教授会(追認)
2021年12月8日(水)	合格通知発送日
2021年12月9日(木)～12月20日(月) 12日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅳ期 12月

2021年5月1日(土)よりWebサイトにて予約受付	予 約
2021年 12月10日(金)	予 約 期 限
2021年 11月29日(月)～12月10日(金)16時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2021年12月18日(土) 午前	面談日
2021年12月20日(月)	出願許可判定教授会
2021年12月21日(火)	出願許可通知発送日
2021年12月22日(水)～2022年1月6日(木) 16日間	出願手続期間
2022年1月17日(月)	合否判定教授会(追認)
2022年1月7日(金)	合格通知発送日
2022年1月11日(火)～1月18日(火) 8日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅴ期 1月

2021年5月1日(土)よりWebサイトにて予約受付	予 約
2022年 1月13日(木)	予 約 期 限
2021年1月5日(水)～2022年1月13日(木)16時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出 ※但し、12月25日(土)～1月5日(水)の期間を除く	エントリーシート提出期間
2022年1月15日(土) 午前	面談日
2022年1月17日(月)	出願許可判定教授会
2022年1月18日(火)	出願許可通知発送日
2022年1月19日(水)～1月24日(月) 6日間	出願手続期間
2022年1月26日(水)	合否判定教授会
2022年1月26日(水)	合格通知発送日
2022年1月27日(木)～2月10日(木) 15日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅴ期 2月

2021年5月1日(土)よりWebサイトにて予約受付	予 約
2022年 2月10日(木)	予 約 期 限
2022年 2月1日(火)～2月10日(木)16時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2022年2月12日(土) 午前	面談日
2022年2月16日(水)	出願許可判定教授会
2022年2月17日(木)	出願許可通知発送日
2022年2月18日(金)～2月24日(木) 7日間	出願手続期間
2022年2月28日(月)	合否判定教授会(追認)
2022年2月25日(金)	合格通知発送日
2022年2月28日(月)～3月7日(月) 8日間	入学手続期間

・総合型選抜Ⅴ期3月

2021年5月1日(土)よりWebサイトにて予約受付	予 約
2022年 3月3日(木)	予 約 期 限
2022年 2月14日(月)～3月3日(木)16時迄 簡易書留で最終日必着または窓口提出	エントリーシート提出期間
2022年3月5日(土) 午前	面談日
2022年3月7日(月)	出願許可判定教授会
2022年3月8日(火)	出願許可通知発送日
2022年3月9日(水)～3月11日(金) 3日間	出願手続期間
2022年4月1日(金) 追認	合否判定教授会(追認)
2022年3月12日(土)	合格通知発送日
2022年3月14日(月)～3月18日(金) 5日間	入学手続期間

・学校推薦型選抜(指定校推薦Ⅰ期、卒業生・在学生家族推薦、公募推薦、専門高校推薦)

2021年11月1日(月)～11月5日(金)16時迄 5日間 郵送は3日(水)消印有効。窓口は5日(金)16時迄	願 書 受 付 期 間
2021年11月6日(土) 午前及び午後	入 学 選 考 日
2021年11月6日(土)	合 否 判 定 教 授 会
2021年12月1日(水)	合 否 通 知 発 送 日
2021年12月2日(木)～12月10日(金) 9日間	入 学 手 続 期 間

※5日に到着した分については、受験票を学内で預り、試験当日受験生に渡す。

※5日に受験生のメールアドレスに、受験票をPDFにしてメールでお知らせする。

試験当日に、メールの受験票画面を確認して、受験票を本人に渡す。

※指定校推薦のグループ分けの際、同じ高校の受験生が重なることもある旨を学内に周知する。

・学校推薦型選抜(指定校推薦Ⅱ期)

2021年12月1日(水)～12月16日(木)16時迄 16日間 郵送は14日(火)消印有効。窓口は16日(木)16時迄	願 書 受 付 期 間
2021年12月18日(土) 午前	入 学 選 考 日
2021年12月20日(月)	合 否 判 定 教 授 会
2021年12月21日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2021年12月22日(水)～2022年1月7日(金) 17日間	入 学 手 続 期 間

・社会人特別選抜

2021年12月13日(月)～1月13日(木)16時迄 32日間 郵送は11日(火)消印有効。窓口は13日(木)16時迄 ※但し、12月25日(土)～1月5日(水)の期間を除く	願 書 受 付 期 間
2022年1月15日(土) 午前	入 学 試 験 日
2022年1月17日(月)	合 否 判 定 教 授 会
2022年1月18日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2022年1月19日(水)～1月28日(金) 10日間	入 学 手 続 期 間

・一般選抜

2022年2月1日(火)～2月24日(木)16時迄 24日間 郵送は22日(火)消印有効。窓口は24日(木)16時迄	願 書 受 付 期 間
2022年2月26日(土) 午前	入 学 試 験 日
2022年2月28日(月)	合 否 判 定 教 授 会
2022年3月1日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2022年3月2日(水)～3月9日(水) 8日間	入 学 手 続 期 間

神奈川県委託訓練生 専門人材育成コース (保育士)

ハローワーク、神奈川県立東部総合職業技術校、人材育成 支援センター 各地区のハローワーク扱い	募集期間
	2022年2月末、 3月中旬(予定)

3. 専攻科介護福祉専攻

1. 介護福祉士国家試験対策に強い教育体制の構築
介護福祉士国家試験対策
 - ① 介養協学力評価テスト(12月)
 - ② 国家試験対策学内テスト(1月)
 - ③ 学内国家試験対策(3日間)
 - ④ 学力評価テストや国家試験対策学内テストの結果を学生に視覚化し指導
2. 専攻科入学者数の増加を図る
 - (1) 全学的な取り組みとして児童福祉学科のグループアドバイザーの協力を得る
 - ① 4月1年生、2年生にオリエンテーションで説明
 - ② 5月2年生への周知をする
 - ③ 9月2年生へ福祉系の教員より専攻科入学を勧める。また学生支援との連携を図る
 - ④ 保証人会を通して、家族への広報
 - ⑤ 専攻科の授業の様子をSNSにて発信
 - ⑥ 2年生就職懇談会にて専攻科生の発表
 - ⑦ 動画配信を活用した専攻科説明会
 - (2) 同窓会会誌に専攻科のチラシで広報
3. 実習の充実
 - (1) 施設見学実習の実施
 - (2) 学生個々に応じた実習指導の充実
 - (3) 新カリキュラムに向けた実習内容を検討
 - (4) 実習巡回指導の充実
 - (5) 事例研究の指導
 - (6) 事例研究発表会の開催
 - (7) 事例集の作成
 - (8) 実習連絡会の開催
 - (9) 高齢者・障がい施設へのボランティアの充実
4. 就業力支援
 - (1) かながわ高齢者福祉研究大会への参加
 - (2) 専攻科修了生による職場体験の発表
 - (3) 特別講義の実施
5. 地域貢献活動
 - (1) 相模原市高齢者福祉協議会主催の研修の講師とし、介護職員のスキルアップ支援
 - (2) 相模原市高齢者福祉協議会と共同し、介護福祉士資格取得のための支援
 - (3) 青葉2丁目の町内会高齢者の方との世代間交流
6. 専攻科10年の歩みの検討

2022年度 専攻科介護福祉専攻 入試日程

・ i 日程①(学内、卒業見込者対象)

2021年8月2日(月)～8月16日(月)16時 15日間 最終日必着または窓口提出	願 書 受 付 期 間
2021年8月26日(木)	入 学 試 験 日
2021年8月30日(月)	合 否 判 定 教 授 会
2021年8月31日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2021年9月1日(水)～9月30日(木) 30日間	入 学 手 続 期 間

・ i 日程②(学内、卒業見込者対象)

2021年10月1日(金)～10月8日(金)16時迄 8日間 最終日必着または窓口提出	願 書 受 付 期 間
2021年10月16日(土)	入 学 試 験 日
2021年10月18日(月)	合 否 判 定 教 授 会
2021年10月19日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2021年10月20日(水)～10月29日(金) 10日間	入 学 手 続 期 間

・ A日程

2021年10月25日(月)～11月20日(土)16時迄 27日間 郵送は18日(木)消印有効。窓口は20日(土)16時迄	願 書 受 付 期 間
2021年11月27日(土)	入 学 試 験 日
2021年11月29日(月)	合 否 判 定 教 授 会
2021年11月30日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2021年12月1日(水)～12月10日(金) 10日間	入 学 手 続 期 間

・ B日程

12月13日(月)～2022年1月7日(金)16時 26日間 郵送は5日(水)消印有効。窓口は7日(金)16時まで ※但し、12月25日(金)～1月5日(水)の期間を除く	願 書 受 付 期 間
2022年1月15日(土)	入 学 試 験 日
2022年1月17日(月)	合 否 判 定 教 授 会
2022年1月18日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2022年1月19日(水)～1月28日(金) 10日間	入 学 手 続 期 間

・ C日程

2022年1月18日(火)～2月9日(水)16時 8日間 郵送は7日(月)消印有効。窓口は9日(水)16時まで	願 書 受 付 期 間
2022年2月12日(土)	入 学 試 験 日
2022年2月16日(水)	合 否 判 定 教 授 会
2022年2月17日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2022年2月18日(金)～2月28日(月) 11日間	入 学 手 続 期 間

・ D日程

2022年2月3日(木)～2月25日(金)16時 23日間 郵送は23日(水)消印有効。窓口は25日(金)16時まで	願 書 受 付 期 間
2022年3月5日(土)	入 学 試 験 日
2022年3月7日(月)	合 否 判 定 教 授 会
2022年3月8日(火)	合 否 通 知 発 送 日
2022年3月9日(水)～3月15日(火) 7日間	入 学 手 続 期 間

4. キリスト教活動

1. 概要

本学での学びを経て、人を教え、育て、支える担い手となる学生一人一人が聖書の教えを深く理解することで、神を敬う心と隣人に仕える心が培われることを目指し、下記のキリスト教活動を展開していく。

2. 組織

宗教委員会は、チャプレン、宗教部長、教授会構成員の中から学長が指名した教員、庶務ユニットリーダー、同ユニット職員によって構成される。

3. 活動内容

3-1 年間聖句

一年間を通して学生と教職員の学園生活を導いてくださる神様からの御言葉として年間聖句を定める。毎週のチャペルアワーのプログラムに掲載し、各人が心に留めることができるようにする。

2021 年度年間聖句「主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい」（フィリピの信徒への手紙 4 章 4 節）とする。

3-2 始業礼拝

前期・後期の始業時に学びと学生生活が守られるように礼拝を捧げる。

3-3 チャペルアワー

本学の建学の精神に基づくスクールモットー「愛と奉仕」について礼拝を通し理解を深める。聖書の御言葉を聴き、説教者や奨励者を通して語られるメッセージに触れ、賛美と感謝と祈りを捧げる礼拝を、毎週月曜日にチャペルアワーとして計画し実施する。前期・後期終了感謝礼拝、卒業・修了感謝礼拝を含め、年間 28 回チャペルアワーを開催する。

3-4 特別礼拝（下記の特別礼拝を計画、実施する。）

- 1) イースター礼拝（4 月 12 日、19 日区分別）
- 2) 創立記念礼拝（5 月 10 日、17 日区分別）（キャリアデザイン I）
- 3) ペンテコステ礼拝（5 月 24 日、31 日区分別）
- 3) 召天者記念礼拝（10 月 18 日）
- 4) クリスマスツリー点火祭（11 月 29 日）
- 5) アドベント礼拝（12 月 6 日）
- 6) クリスマス礼拝（12 月 13 日）（キャリアデザイン I）
- 7) 卒業・修了感謝礼拝（3 月 7 日）

3-5 新入生研修会

4月6日(火)に新入生研修会を区分別で実施する。宗教部オリエンテーションと礼拝、講演を通して、今後の学びの礎を培う。(2020年度にお願いした講師は江原美歌子氏だが、COVID-19感染の状況次第で時間短縮の目的のためオリエンテーションのみの実施も検討する。)

3-6 クリスマスコンサート(子育て支援プログラム「はっぴい」と共催)

12月に子育て家族及び地域住民を対象としたクリスマスコンサートを計画し実施する。COVID-19の感染状況次第で実施の形態あるいは不実施を検討する。

3-7 チャイルド・ファンド・ジャパンの里親支援と全国の児童福祉施設等への支援

チャペルアワーと特別礼拝等での献金をチャイルド・ファンド・ジャパンのスポンサーシッププログラム、及び児童福祉施設、関連団体等の活動支援のために送る。

3-8 和泉クリスチャン・フェローシップ(I.C.F.)

聖書に親しむことを通して学生同士および教員との交流を深めるとともに、キリスト教活動を豊かに経験する。

3-9 学生聖歌隊

讃美歌、子ども讃美歌、宗教曲の合唱練習活動を通じ、仲間とともにキリスト教音楽に親しみ、チャペルアワー、特別礼拝における奉仕のための練習を中心に活動する。チャペルアワー、特別礼拝、学内諸行事にて賛美の奉仕を行う。

3-10 ハンドベルクワイア

選択科目である「ハンドベルⅠ」「ハンドベルⅡ」「ハンドベルⅢ」「ハンドベルⅣ」と連携し、科目担当者・履修生によるチャペルアワー、特別礼拝等での演奏の奉仕、クリスマス関連行事での演奏を行う。また学外からの依頼演奏にも適宜対応する。

3-11 教会紹介

掲示や、チャペルアワーでのチラシ配布などを通して、本学近隣の教会について周知する。また、学生の教会出席を奨励するため、「キリスト教概論」、「キリスト教保育」の授業と連携する。

4. 2021年度の重点課題

4-1 チャペルアワーの充実

全学的にチャペルアワーへの出席を促す。キリスト教に基づく建学の精神を理解できる機会として関心を持ち、参加しようと思える雰囲気を作ることを目指す。クラークホールの宗教的環境の素晴らしさを折々に伝える。チャペル委員から学生への呼びかけを積極的に行えるよう、委員の役割についても周知し、それぞれの役割を遂行するよう促していく。また、ポートフォリオのチャペルアワーシートの活用や、他教員の協力を得

て授業等で働きかけていくことを通し、チャペルアワーの恵みと学びの蓄積を、一人一人が記録として残す取り組みを継続する。

4-2 学生のキリスト教活動の支援

チャペル委員会の活動の一環として年間3回の委員会を開催する。さらに、いずみ祭への展示発表参加、クリスマスツリー点火祭の企画運営など学生主体の活動になるよう支援する。

学生聖歌隊の活動が安定的に継続していくことを目指し、参加への呼びかけを年間を通して行う。I.C.F.の月例会（聖書輪読会・祈祷会）への参加を促すためにキリスト教推薦入学生などの対象者への呼びかけを積極的に行い活動の充実を図る。

いずれの活動も神様の恵みのもとに、感謝と喜びをもって、自発的に奉仕を続けていけるように促す。

4-3 地域に開かれたキリスト教活動の展開

地域に開かれたキリスト教学校として、地域貢献を高めることを目指す。クリスマスツリー点火祭、クリスマスコンサート、和泉スプリング・コンサート、授業科目「ハンドベル」の学外での依頼演奏などを通じ、近隣の方々との関わりを大切にする。

5. 研究活動

佐藤守男教授

【研究課題】

1. 彫刻等の表現（形・素材）の可能性について
2. 日本や欧米の美術館・画廊の調査研究

【教育課題】

1. 造形表現の教材研究

【学会参加予定】

個展、グループ展、日本美術家連盟、
民族藝術学会、日本臨床死生学会 他

大下聖治教授

【研究課題】

1. 保育職を志す学生を対象とした体力評価と体力づくりプログラム(継続)
2. 運動技術の方法的運動系列に関する検討(継続)
3. 指導技術(コーチング)の習得に関する研究(継続)
4. 身体運動・表現遊びと安全対策に関する研究(継続)

【教育課題】

1. 乳幼児期の発達に効果的な運動・遊び・環境構築について、学生個々が理解を深め、基本的な援助技術の習得が成されるよう、一層の授業の充実と工夫を図る
2. 保育・福祉の現場で必要となる体力的要素の養成とサポート
3. 子どもの「身体運動遊び」及び「身体表現遊び」に積極的に関わり、環境の構築と工夫ができる保育者の育成
4. 社会人として、また保育者として大切な心的態度やマナーの養成
5. 学生生活の充実と課外活動支援、および進路支援

【学会参加予定】

1. 日本体育学会
2. 日本体力医学会
3. 日本保育学会

【社会的活動】

1. 全国保育士養成協議会 理事

保育士を養成する学校を会員とする団体。会員校の教職員等の参加による調査・研究、研究誌の発行、研修会の開催等を行っている。

2. 全国保育士養成協議会関東ブロック 理事

保育士を養成する関東の学校を会員とする団体。会員校の教職員等の参加による調査・研究、研究誌の発行、研修会の開催等を行っている。

3. 座間市子ども・子育て会議 会長

子ども・子育て支援法に規定する子ども・子育て支援事業計画の策定等に関し、市長の諮問に応じて調査審議を行う。

4. 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会苦情解決第三者委員

苦情に対する社会性や客観性を持った「第三者委員」として、公正・中立で一定のルールに沿った苦情解決ができるように調整。

5. 座間市総合戦略推進懇話会委員

座間市総合戦略で掲げる重要業績評価指標の進捗状況の検証及びその評価等を行う。

武 石 宣 子 特任教授

【研究課題】

1. リトミック教育(リズム運動・ソルフエージュ・即興演奏を含む)に関する研究
2. プラスティック・アニメの研究 (子どもの歌を題材、小道具を用いて)
3. 子どもの歌の簡易伴奏法の研究 (アレンジ法、前奏後奏の工夫)
4. コロナ禍における表現型教科目の効果的な指導法及びシラバス研究
5. 子どもと音楽 (ML・ピアノ) に関する教材研究
6. 動きの為の即興 (声・身体・楽器を用いての誰でも簡単にできる工夫)

【教育課題】

1. リトミック (選択教科目) の授業内容、授業運営の工夫
2. 子どもと音楽 (ML・ピアノ) の授業内容、授業運営の工夫
3. 親子リトミック (親子ふれあい遊び、子育て支援) の指導方法の充実
4. 1コマ105分導入による授業展開の工夫

【学会参加予定】

大学教育学会 日本保育学会 日本音楽教育学会
日本ダルクローズ音楽教育学会 大学音楽教育学会
日本乳幼児教育学会 日本キリスト教社会福祉学会
日本保育者養成教育学会 初年次教育学会
日本レジャー・レクリエーション学会
アクティビティ・サービス協議会 幼児音楽研究会

松 浦 浩 樹 教授

【研究課題】

1. 「子どもの遊びの充実と拠点の必要性について」(その3)
継続研究として、テーマ設定の変更:(旧)「子どもの遊びの充実と中心性について」(その3)
関連研究として、「子どもの遊びの充実と秩序感の生成過程について」
2. 幼児期における両義的認識の発達過程について
3. キリスト教保育の現状と課題
4. 家庭生活・文化の変遷と保育における遊びの必然性とその質の研究 (～2015年まで)
5. 保育現場の事例研究の方法と子ども理解の循環的理解過程の研究 (～随時継続)
6. 子育て支援における地域貢献の意味とその質に関する研究 (～2012年まで)
7. 境界性喪失と保育者養成・新任教育の課題 (～2015)、保育就業力育成プログラムの現状と課題
8. 「学び」の脱学校化と文化的創造への課題(テーマ「施設化する生」の継続的研究)

9. 「大学講義科目におけるアクティブラーニングの可能性 —保育原理・教育原理における実践と省察—」

上記テーマに基づき、協力園（幼稚園・保育園）での観察データ、映像記録、園内研究での貢献を軸に、保育実践に寄与する研究を目指す。またテーマ6、7に関して、学内で関与する学生、保護者（親子）との実際のなかかわりの中から、現状と課題を明らかにする。

10. 教育目的の潜在性と出会いとしての真実の探求

*2020年度は、COVID-19感染拡大による緊急事態宣言下、また解除後の分散登校分散対面授業、オンライン授業の導入に伴う授業方法の見通しと授業改善及び運営管理の原案作成とその具体的な準備や環境整備、2021年度授業の105分化に伴う準備等に追われ、授業研究以外の専門領域に関する研究に一切着手できなかったため、2020年度の上記の研究活動(研究テーマ)をそのまま継続する。

【教育課題】

1. 短大における学び・保育者への学びについての態度変容について、新入生に対して「保育原理」・2年生に対して「教育原理」の授業の中で、主にアクティブラーニングを通じて実践していくこと。さらに、今年度は保育就業力を育成するために、保育現場のニーズに関連させるプログラムの開発と工夫に努力する。
2. 2020年度に促進されたオンライン授業に関して、COVID-19感染拡大防止の観点を超越し、今後は幅広くICT教育の活用として有効かつ質の高い授業展開を目指し、その授業研究やFDを通じて、授業・講義への有機的活用に向けた教員間のコンセンサスを図っていく。
3. 上記の取り組みを通じて、教育・保育の目的論（潜在性と教育的配慮の真実性）を明確に学ばせる。
4. 「保育原理」、「教育原理」の授業内容の充実にあたり、上記の研究における実際のデータ（事例・ビデオ）を収集すると共に、これらを学生に還元し、人間現象を考察する力・人間教育としての保育への理解を促進する。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本キリスト教教育学会
4. 子どもと保育総合研究所・所員研究会
5. OMEP（世界幼児教育機構）日本委員会 国際共同研究
6. キリスト教保育実践研究会
7. キリスト教保育連盟 カリキュラム委員会
8. キリスト教保育連盟 保育実践研究委員会・委員長
9. 保育教諭養成課程研究会(文科省重点課程研究)
10. 全国保育士養成協議会（平成29年度第56回大会）実行委員
11. 日本キリスト教教育学会論集編集委員会 事務局 担当

【社会的活動】

1. キリスト教保育連盟・部会保育者研修会・講師

2. 幼稚園協会 園内研究の継続的な観察と研究指導
3. 相模原市保育士会所属保育園の継続的保育観察と研究指導
4. 学校法人雲柱社松沢幼稚園：評議員
5. 学校法人宮の台幼稚園：理事
6. 学校法人愛育学園愛育養護学校（特別支援学校）：評議員
7. 学校法人椿学園でんえん幼稚園：理事
8. 学校法人相愛学園武蔵野相愛幼稚園：評議員
9. 社会福祉法人御殿場コロニー野菊寮：監事
10. 社会福祉法人相模和泉福社会和泉保育園：理事
11. 社会福祉法人横浜 YMCA 福社会：評議員

【その他委員会等】

1. 教務委員会の部長として、これまでの沿革を尊重しつつ、より豊かな「教育—学習」環境を整備する。2014年度導入した1.2年生の共同授業(保育実習・教育実習)の有機的展開をさらに工夫し、「2年生が保育学の先輩として成長する」ことを促進し、1年生の学習意欲や動機を高める場の保証を他の講義・授業においても模索する。
また、開講授業全体を通じて、演習科目に限らず、講義における「アクティブラーニング」の可能性を求め、学生の豊かで創造的な学びを促進する提案を各授業担当者にしていく。2019年度に作成したアクティブラーニングの実施アンケート(2020年度から実施予定)について、2020年度は、COVID-19感染拡大による緊急事態下、また解除後の分散登校分散対面授業、オンライン授業の導入の影響で実施できなかった。2021年度は実施率、実施内容を調査分析し、学びの活性化に努めていく。
2. また、上記アクティブラーニングを促進し、より実践的で質の高い授業を行うため、2021年度からの授業運営を90分15回構成から105分13回構成に変更する案を2020年度内に企画し、教授会で承認された。これに伴い、シラバスの再構成や要綱も見直し、全教員に提示した。この1単元15分延長することにより、ALの内、学生の学び合いが時間的に保障され、指導側もこれまでよりも課題を掘り下げて授業を展開することが可能となる。1単元の時間を延長した分、開講期間を2週間短縮することが可能となり、学事にゆとりが生まれ、2020年度のような緊急事態にも柔軟に対応することができるようになった。
3. また2020年度は、上記記載の通り、COVID-19感染拡大による緊急事態下、また解除後の分散登校分散対面授業を実施した。それが後押しとなってオンライン授業の導入の促進が図られた。2021年度はCOVID-19感染拡大防止の観点を超越し、ICT教育を促進する観点から、より質の高い養成教育求めて具体的な授業改善の提案を行う。
4. 上記の具体的取り組みとして、学修成果の可視化を目指してICTの導入（ICTを利用した往還型の学習）を図り、下記のような連形体制を構築する。
5. 教務委員会の下部委員会として、キャリアデザイン委員会・ポートフォリオWG・専攻科介護福祉専攻委員会を有機的に統括し、特に科目「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」と「保育実習 各科目」、そして子育て支援での取り組みが学生の実践的な職業教育として、系統的に繋がりをもったものとして位置付くようカリキュラムの関連付けを強化していく。またラーニングセンター、そして2020年度新設されたオンライン授業促進WGとの連携においては組織的有機的運営に努め、これらの委員会が相互に連携を図りながら学生の学びを支援していくことと同

時に、離学者改善検討委員会においては、学生部との連携を強化しつつ、学習以外の支援の可能性を探る。

6. キャリアデザインセンター（CDC）の有効活用とプログラム、及び地域貢献（連携）の新たな可能性を探る。これまで地域の親子を中心に貢献を図ってきたが、新たに「高齢者」を視点においた「地域に根差した」キャンパス構想を提案していく。
 7. キリスト教学校として、宗教部と連携を強め、建学の精神（アドミッションポリシー）に根差した総合的・系統的学び、特にキリスト教精神の理解に基づく職業召命観の豊かな形成をめざし、入学前教育から導入し、入学後はキリスト教関連科目はもとより、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」等の授業におけるカリキュラム内容を工夫することに努める。
 8. 2018年より「教職課程WG」を設立し、「教職研究」と題した、研究誌を出版。2020年も3月に発行し、第4号となる。これにより、各教員の専門分野における研究以外に、各開講科目の授業研究を促進することになり、研究と教育の有機的な展開が図られた。今後も本WGは、教員相互の授業研究に役立てることを目的に、10年先の再課程認定を見据えながら、本誌を作成しつつ、教員の研究業績・教育業績の積み上げを促進していく。また松浦自身の講義の在り方の省察や学生の学びが今以上に活性化するための教授法研究として取り組んでいくつもりである。
 9. 尚、高校時代に学習意欲や学習方法、学修習慣が確立されていない学生が増加しているため、本学での学びの入り口である「入学前教育」の在り方を再度工夫する必要がある。2018年度よりこれらを鑑み、座学のみではなく、表現系の（造形表現・音楽表現・リトミック・介護実習）の演習を12月期・1月期に導入しているのは、効果的である。座学では経験できない学ぶ楽しさを実感しているようでもあり、教務委員にとっては、学生の普段の姿を垣間見ることが可能となったため、入学後の学習準備（クラス編成等も含め）に具体的な工夫を企てることが可能となった。
- 2020年度は、2月期・3月期の入学前教育の在り方を模索していく。

鈴木敏彦 教授

【研究課題】

1. 福祉サービス利用者（子ども、障害者、高齢者等）の権利擁護とソーシャルワークに関する研究（虐待防止、意思決定支援、差別解消、合理的配慮等）
2. 障害児・者相談支援（障害ケアマネジメント、障害ソーシャルワーク、地域共生社会にむけた社会資源開発等）に関する研究
3. 戦前期「経済的保護」に関する史的研究（不良住宅地区改良法を中心に）

【教育課題】

1. 「共生」「人権（子どもの権利）」を基軸とし、「SDGs（Sustainable Development Goals）」に対応する社会福祉教育のあり方について
2. 児童福祉専門職（保育士等）養成課程における社会福祉・ソーシャルワーク教育のあり方について
3. 「保育ソーシャルワーク」のあり方について
4. 社会福祉教育における高大連携のあり方について
5. 障害のある学生に対する児童福祉専門職（保育士等）養成教育のあり方について

【学会参加予定】

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、社会政策学会、社会事業史学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本グループホーム学会、障害学会、社会保障法学会、大学教育学会、日本社会福祉教育学会、東洋大学社会福祉学会、淑徳大学社会福祉学会、成年後見法学会、日本高齢者虐待防止学会、日本障害者虐待防止学会 ほか

井 狩 芳 子 教授

【研究課題】

1. 「保育内容『健康』」を視点とした「乳幼児の“運動あそび・生活リズム・基本的生活習慣”の獲得に関する研究」と、その視点を踏まえた学生支援の在り方の模索（継続）
2. 現代生活に対応した、乳幼児(保護者含)の健康保障／運動あそびの普及・検証（理論と実際）
*子育て広場などに参集した親子様の協力を得、文部科学省が提示した「幼児期運動指針」に基づいた啓蒙活動を実施（継続）
*協力団体（予定）：冒険遊び場・保育所・幼稚園等
3. 幼少年体育指導士会の養成プログラムの勉強会の立案

【教育課題】

1. 保育内容「健康」：
 - ア、2020年度に導入が進んだIT環境の活用について、教科書をベースにした調べ学習の機会をふやし、学びの導入として自らの健康に関する意識喚起を促し学生自身の気づきの開発に努める
 - イ、到達目標をスリム化し、学んでほしい内容と学生が理解出来る内容の調整をしながら資料等の工夫をする
 - ウ、各回授業開始時と終了時のキーワード確認・記入式のレジメの配布とその提出を重ねながら、学生の知識の定着をはかる
 - エ、ポートフォリオを活用した学びの連動をはかる
 - オ、保育者の視点に気付く機会とする
2. 保育内容の総合的指導法「健康」：当該科目の目的が、保育内容『健康』（1年生前期設置科目）に続く、現場の指導法を念頭に設置された科目であることを踏まえ、「ヒトが育ち、生きていくために、なぜ乳幼児期の“健康／身体活動（あそび）”が必要不可欠なのか」について、実践や指導法を通して学びの定着をはかる
 - ア、「保育現場における健康／あそびの援助」を実際におこない、「保育者自らが、いつでも・どこでも、気軽に健康／あそびの指導が出来る力の習得」を目指し、「実践と理論に強い保育者」を育てる
 - イ、授業構成の前半は、前期の学びを指導法に結びつけて深掘りし、後半には、あそびや食育の年間プログラム作成もおこなう。また、簡単なあそび課題を多数体験し、それを達成することで自己肯定観獲得を促す
 - ウ、幼児期運動指針（文部科学省）の内容も取り入れて、“学生自身が「からだでわかる」”授業の展開に努める。
 - エ、今年度(分散授業)の経験を活かし、社会情勢にあった最善の展開に努める

3. 実習指導/グループ担任：

- ア、日常生活に対し困難を抱く学生が増加する中、引き続き学生の状況と気持ちを汲み、学生の小さな気付きを積極的に評価し自己肯定観を高める
- イ、現代社会の情勢把握とともに若い世代の文化に興味をもつ
- ウ、自身のストレスのコントロール術を習得し、ひいては、その術を学生と共有する
- エ、1年生終了頃には、概ね学生らしい自覚を持った日々の生活が出来るような支援に努める。そして、新1年生へのサポーターとして新2年生の力を十分に活用し、2年生の一層の力も育てながら、その力を1年生の成長の一助とする。困難な社会状況下、“実習の合同授業/グループ活動/礼拝”などの他者との共有時間を通し、本学への帰属意識や大人になる心の準備へのサポートに努める

*2019年度以降、授業受講のメンバーを「組」による構成としたが、その中には偶発的に退学や欠席が多くみられる組もみられるため、是正を目指し他の教員との連携を模索する

【社会的活動】

1. 「小児保健研究（日本小児保健学会発行雑誌）」投稿論文査読委員
2. 「神奈川県相模原市青少年問題協議会」会長
3. 「神奈川県開成町子ども・子育て会議」委員
4. 「子どものからだと心連絡会議」全国委員／会計監査
5. 一般社団法人 幼少年体育指導士会 理事
6. 「社会福祉法人 歩育の会」理事
7. 「NPO法人 子どもの居場所ネットワーク」理事

【学会参加予定】

1. 日本保育学会（2021年5月）
2. 日本保育保健学会（2021年5月）
3. 日本小児保健学会（2021年6月）
4. 日本体育学会（2021年9月）
5. 子どものからだと心・全国研究会議（2021年12月）
6. 日本発育発達学会（2022年3月）

横 川 剛 毅 教授

【研究課題】

1. インクルーシブなキリスト教会についての研究
2. 優れた社会事業家についての人物研究

【教育課題】

1. より深い配慮が必要な子どもに寄り添うことができる保育者・支援者の養成
2. 障がいのある人への支援についての関心を喚起し、障がい関連福祉事業所への就職者を増加させる

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 日本キリスト教社会福祉学会

松 山 洋 平 教 授

【研究課題】

1. 保育現場と連携して行う新たな実習教育・保育者養成のあり方
2. 保育の質向上を支える研修と保育者の変容の過程に関する研究
3. 保育者の子どもを理解することの深化についての研究

【教育課題】

1. 担当科目「保育内容・環境（指導法）」における、さらなるALの開発と内容の充実
2. 実習先との連携による実習教育のさらなる充実を目指した取り組み
3. サークル、自主ゼミ等、授業外学習を行う学生を支える取り組み

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会

【社会的活動】

1. Will とともに語ろう（和泉短期大学学生・卒業生研修会）
2. 墨田区子ども子育て会議委員
3. 荒川区保育園指定管理者候補者審査委員会委員
4. 荒川区子育て支援部指定管理者実績評価委員会委員
5. ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部評価委員
6. 川崎市認可保育所（株）ぶどうの実系列園 要望等解決審査委員（第三者委員）
7. 幼稚園教諭免許状更新講習講師（神奈川県幼稚園協会）
8. キャリアアップ研修講師（相模原市・横浜市・認定こども園連絡協議会）
9. 預かり保育担当者研修講師（横浜市幼稚園協会）
10. 子どもと保育総合研究所所員（研究大会・セミナーなどの企画・運営・講師）
11. 大田区公立保育園公開保育研修講師
12. 鉄道弘済会研修会講師

山 本 美 貴 子 准 教 授

【研究課題】

1. 2020年度「保育内容 表現」「保育の総合指導法 音楽表現」について、分散対面授業・リモート課題・夏季・春季集中講義の組み合わせにより、コロナ禍においても、理論学習と表現活動・創作演習の授業実践を実施できた。学生への調査研究（2020年度本学紀要掲載）を基に、さらにコロナ禍での表現型科目の授業内容研究を継続する。
2. 学生への調査研究（2019年度学会発表・紀要掲載）を基に、実習事前学習としてのピアノ特別講座の内容や教育効果、実習時のピアノ以外の音楽表現活動と事前学習についてなどの検討を重ね、保育における保育者の音楽実践や、養成校での保育者の音楽性の育成について新しい方向性を提言したい。
3. 自発的な遊びの中に見られる子どものリズムカルな言葉・音・動きによるやりとりと遊びの展開に関する研究から、保育者自身の感性・表現力・レパートリーや援助技術の向上を目指す研修方法・内容を探りたい。

【教育課題】

1. これまで数年にわたり、半期科目「保育内容 表現」と、隔週通年科目「保育内容の総合的指導法音楽表現」として、それぞれの授業進度で進めてきたが、次年度より前期「保育内容表現」後期「保育内容の総合的指導法 音楽表現」として、年間を通して表現系授業を毎週継続して行えることになった。省察・検討を継続し、双方の授業内容の往還性・連続性・差別化双方の視点から保育者の音楽性を育む「授業内容研究」を継続する。
2. 音楽教育全体の課題である「音楽を創る」をテーマに、学生が主体的に学ぶ創造的な表現活動（音楽や表現を創る活動）を主軸にして、個々の学生の知識と個性を生かした協働的、創造的、想像的な授業実践を目指す。ICT、ポートフォリオなどの積極的活用により、引き続き学生の学習段階・学習成果の可視化を工夫したい。
3. コロナ禍での演習授業における音楽でのやりとり・創作活動・発表方法などについて、2020年度の経験踏まえ、さらに吟味を重ねる。

4. 「聖歌隊」活動内容と選曲・指導方法について

2020年度は、文科省発信のガイドラインの内容などに対応し、課外活動での合唱に慎重に取り組み、8月期まなキャンのプログラムとして1回、12月クリスマスツリー点火祭に2回の奉仕を行った。活動予定が未確定だった為、1年生の本格的な募集は行わず、1回ずつの活動に誘って活動した。2年生10名（2019年度より継続）、1年生は、夏2名、クリスマス時4名が参加した。授業・実習の実施と感染拡大予防を最優先に、コロナ禍での聖歌隊活動について模索していく。

2021年度より練習時間（水曜2限キャンパスライフアワー約60分）が変更になるので、新しく日程（月曜2限、チャペルアワー後の時間と昼休み）を他の委員会・課外活動と住み分けて、楽しんで効果的な練習が行えるように工夫し、学生の意欲向上を支えたと考える。

5. グループ運営の充実と 個別学生指導について

（2021年度2年生）

前島麻衣先生育休期間中の2D（2020年度生）について、グループ指導・実習指導授業の担当を行うので、これまでの学びに支えられた学生の主体的な学びを引き出し、2年次教育実習・保育実習Ⅱの指導と、生活・進路指導に丁寧に取り組みたい。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本音楽教育学会

矢野 由佳子 准教授

【研究課題】

1. 新任保育者の情緒体験とキャリア意識に関する調査研究
2. 乳幼児の発達と心理臨床の実践

【教育課題】

1. 子どもや保護者の心に深い理解を持ち、カウンセリングマインドをもって接することのできる保育者の育成
2. 心身の健康管理に留意できる保育者の育成

【学会参加予定】

日本発達心理学会 日本心理臨床学会 他

中野陽子 准教授

【研究課題】

1. 知的障害者の支援をするソーシャルワーカーの専門性に関する研究
2. 障害者の権利擁護に関する研究

【教育課題】

1. 人権を護り、多様性を尊重し、共生社会の実現ができる保育者の養成
2. 特別な配慮が必要な子どもの支援ができる保育者の養成
3. 障害者施設における支援の魅力を伝え、就職先の選択肢の一つになるようにしていく
4. 社会福祉士や特別支援学校教諭免許状取得に向けた編入学を推奨していく

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 社会福祉教育セミナー
3. 全国保育士学会

【社会的活動】

1. 相模原市民オンブズマン
2. 神奈川県立さがみ緑風園第三者委員
3. 社会福祉法人ウィズ町田評議員/虐待防止委員

久保小枝子 准教授

【研究課題】

1. 絵本やおもちゃが乳幼児の発達に与える影響を継続して研究
2. 青年期における宗教心の芽生えとその育成を調査・研究
3. 実習の事前学習と事後学習の充実のための調査・研究
4. 子育てひろば「はっぴい」「すまいいい」の地域支援に主体的に参加する学生の保育の専門性の向上についての研究
5. 現職教育の育成—保育の質の向上を目指して—
6. イタリアのレッジョ・エミリア幼児教育に関する研究

【教育課題】

1. 学生が保育職への意識を高め、主体的に学ぶための教育方法を探る。
2. 保育内容「言葉」、保育内容の総合的指導法「言葉」、「キリスト教保育」、「保育・教職実践演習」の講義や演習を充実させるために、学生が保育現場の具体的な事例から学べるように工夫する。保育現場での資料集め、見学、保育者にインタビューを中心に行い、理論と実践の統合を目指す講義、演習を行えるように努める。
3. 学生の学習環境についてアンケートや聞き取りを行い、より質の高い充実した環境整備を学生と共に探る。
4. 地域の子育て支援プログラム「はっぴい」「すまいいい」に参加する学生に実践的な学びの場を提供する。学生が計画案作成、実践及びその振り返りを通して、主体的に学ぶ機会を支援

する。おもちゃや造形活動など学生と教材研究を行い、保育技術習得の支援に努める。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本キリスト教教育学会
3. 日本保育者養成教育学会
4. 子どものための芸術と遊びフォーラム
5. OMEP（世界幼児教育・保育機構）日本委員会

【社会的活動】

1. キリスト教保育連盟『キリスト教保育』コメントの会委員
2. キリスト教保育連盟『キリスト教保育』「心にとめて」「実践を読んで」執筆
3. 和泉短期大学子育て支援プログラム（はっぴい・すまいりい）リーダー企画・運営
4. 横浜YMCA県内14園ある保育園のスーパーバイザー
5. 横浜市立保育所の民間移管にかかる法人選考委員会委員
6. 相模原市保育士キャリアアップ研修講師
7. 相模原市私立・認定こども園協会研究推進部研修会「子どもと共に育つ保育者」年間講師
8. キリスト教保育者同盟研修講師

八 代 陽 子 准教授

【研究課題】

1. 乳児理解

①保育者の乳児理解の視点の一考察～保育ドキュメンテーションに着目して～

保育ドキュメンテーションの切り取りの場面に着目し、保育者の乳児理解の視点について探る。

②保育者の乳児理解の視点の一考察～一日の生活場面に着目して～

保育ドキュメンテーション・観察・インタビューを通して、乳児の一日の生活場面で、保育者が着目する視点から、保育者の乳児理解について探る。

③乳児とモノのかかわりの一考察～乳児にとってのモノの意味に着目して～

これらのことを明らかにすることにより、乳児保育の質の向上及び保育者養成校教育授業の「乳児保育」のより良い在り方の示唆を得る。

2. ミドルリーダーの後輩指導に関する研究

インタビュー調査を通して、ミドルリーダーにとっての後輩指導の意味について探る。

このことを明らかにすることにより、ミドルリーダーの育成及び、保育の質の向上の示唆を得る。

【教育課題】

1. 子ども理解を深める授業の検討 その3－「子ども理解と援助」授業における「保育カンファレンス」に着目して－

授業「子ども理解と援助」の中の「保育カンファレンス」に着目して、アンケート・授業レポート等から、「子ども理解」を深める授業実践の評価、改善、計画を行う。

2. 子ども理解を深める授業の検討 その4－乳児保育授業に着目して－

授業「乳児保育」の中の「遊び」「生活」に着目して、アンケート・授業レポート等から、「子

ども理解」を深める授業実践の評価、改善、計画を行う。

【学会参加予定】

1. 日本医療保育学会
2. 日本保育学会
3. 日本乳幼児教育学会
4. 日本保育園保育保健協議会
5. 日本保育者養成教育学会

坂 井 悠 佳 准教授・チャプレン

【研究課題】

1. キリスト教学校における伝道に関する研究
2. 明治期を中心とする日本教会史の研究
3. 日本のキリスト教会の背景としてのアメリカ神学に関する研究

【教育課題】

1. チャペルアワーにおいて、イエス・キリストの福音を正しく伝え、建学の精神であるキリスト教信仰を指し示す。
2. キリスト教科目の授業において、聖書の福音、建学の精神を教導することを通し、保育・福祉のよき担い手の養成に資する。

【学会参加予定】

1. キリスト教史学会
2. 日本基督教学会
3. 日本思想史学会
4. 横浜プロテスタント史研究会
5. 日本近代史研究会
6. 歴史人類学会

【社会的活動】

1. 日本基督教団教務教師
2. 明治学院大学キリスト教研究所協力研究員

中 安 恆 太 准教授

【研究課題】

「小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）の意義と課題」

近年、日本においては家庭養護（里親やファミリーホーム等）の促進が図られているが、ファミリーホームは、第2種社会福祉事業のため施設的な側面があり、里親と比較すると公的支援の活用が限られている。そのため、養育者の負担が増えることが予測されるが、インタビュー調査等の詳細なデータは限られている。養育者の考えるファミリーホーム養育の意義と課題を整理し、必要な支援を考察する。

【教育課題】

担当科目では、学生が施設実習や現場実践に役立てる知識・技術・倫理が得られよう分かりやすい授業を展開する。具体的には、テキストに書かれている内容を落とし込むための資料

提供やDVD視聴、グループワーク等を行う。また、子どもやその家庭を取り巻く環境の課題や必要な支援を探求する視点を養えるようにする。

【社会的活動】

1. 相模原市子どもの権利相談室 救済委員
2. 社会福祉法人ル・プリくるみ会事業本部 オンブズマン
3. 社会福祉法人みのり会 監事

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 日本子ども家庭福祉学会
3. 日本子ども虐待防止学会

吉 田 久仁子 専任講師

【研究課題】

1. キリスト教保育の担い手としての理事会に関する研究
2. 保育者の人間関係についての研究-子ども・保護者・保育者-
3. 新卒保育者の職場定着について、新卒保育者と採用側のそれぞれの立場からの聞き取り調査・研究

【教育課題】

1. 東日本大震災・原発事故の経験を通して、保育者のあるべき姿について学生と共に考える。
2. 保育現場の映像やエピソードを交えて、保育の理論と実践が結びつく講義を展開し、学生自身も保育を語れるように演習を積み重ねる努力をする。

【社会的活動】

1. ホープツーリズム教育研修企画
東日本大震災と原発事故後の帰還困難地域や避難指示解除後の地域など、被災地の生の現場を見るとともに復興に取り組む様々な立場の人たちの話を聞き考える。
2. いずみ祭にて福島県産品の紹介
3. 寿地区センターにおける炊き出し、バザー参加

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本キリスト教教育学会
3. 日本子ども虐待防止学会

星 早 織 助教

【研究課題】

1. 乳児保育の質の向上に関する研究
2. 保育者養成における学生の成長の変容プロセスに関する研究
3. 子育て広場「はっぴい」「すまいいい」における地域子育て支援の充実に関する研究

【教育課題】

1. 担当教科において、教材及び保育現場での事例を通して学生が自ら考え、また他者と協力しながら知見を広げられるような演習授業を設定する。
2. 学生自身が保育を客観的に捉え、評価・反省ができる保育者となれるよう記録する力を身に

つけられる授業を構成する。

3. グループ担任として、学生が入学から卒業までの見通しを持ち、充実した学生生活が送れるようグループ運営に努める。
4. 子育て支援プログラム「はっぴい」「すまいいい」に参加する学生に実践的な学びの場を提供し、学生主体の企画の支援を行う。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本保育者養成教育学会
4. 日本社会福祉学会

安 西 美 咲 助教

【研究課題】

1. ソーシャルワーク実践における意思決定支援に関する研究
2. ソーシャルワークにおける権利擁護と成年後見に関する研究

【教育課題】

1. 実習サポートにおいて、児童福祉の専門職を目指す学生が充実した実習での学びを得られるよう、学生一人ひとりと向き合いながらサポートに努める。
2. 保育職を目指す学生が、ソーシャルワークの視点（人権や価値観、多様性の尊重等）や、コミュニティソーシャルワーク（子どもや保護者の生活の基盤となる“地域”（社会資源）との連携 等）の視点に関心が持てるよう努める。

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会

前 島 麻 衣 助手

【研究課題】

1. 保育現場での音・音楽のあり方について
保育現場の音のあり方について研究を深めていく
2. 幼児の音楽表現を支える保育者について
学生の授業と実習での経験から、幼児の音楽表現を支える保育者に必要な事から、学生に必要な学びを考えていく
3. 養成校で学ぶ学生の音楽について
「学生の音楽歴や音楽に関する調査研究」

【教育課題】

1. 「子どもと音楽」の授業内容と方法について
2. 学生の実習準備の支援方法について
3. 聖歌隊の取り組みについて

専攻科介護福祉専攻

佐藤 美紀 准教授

【研究課題】

1. 実習の学びにおける認知症高齢者への理解の変容について
2. 相模原市内の高齢者福祉施設における移動・移乗技術の現状調査
3. 専攻科における国家試験合格に向けたアプローチ

【学会参加予定】

1. 日本介護福祉学会
2. 認知症ケア学会

佐久間 志保子 特任教授

【研究課題】

1. 介護人材に関する取り組み
2. 高齢者施設における感染症対策

【学会参加予定】

1. 日本介護福祉教育学会
2. 日本認知症ケア学会

出村 由利子 特任准教授

【研究課題】

緩和ケア

1. 絵本を用いたグリーフケア
2. 補完代替療法による緩和ケア

【教育課題】

1. 考えるより感じることを大切にする
2. 苦しむ人から逃げずにそばにいるために沈黙を大切にする
3. 自分の内側に対する気づきをえるために身体感覚を大切にする

【社会的活動】

1. 子ども食堂奉仕
2. 緩和ケア病棟奉仕

【学会参加予定】

1. スピリチュアルケア学会
2. 介護福祉教育学会
3. グリーフケア研修会

6. 委員会活動

教務委員会（教務部長 松浦 浩樹）

教務委員会は、教務委員会規則により（1）教育課程に関する事項、（2）試験に関する事項、（3）学籍の異動に関する事項、（4）その他、教務に関することを所掌事項とする。左記の各事項のうち、2021年度は、COVID-19の感染に伴い2020年度内に実施できなかった「和泉短期大学第2次中期計画」を踏まえ、下記の点を重点的に取り組むこととする。なお、2021年度の授業運営も引き続きCOVID-19の感染状況を鑑みながら、安心・安全対策に柔軟に対応しながら、教育内容の質の担保に努める。以下の計画は関係する他の委員会等との十分な調整等を行い実施する。

（1）教育体制の充実

①3つのポリシーの明確化と共に「5つのコンピテンシー（ディプロマサプリー）」「和泉の10の力」をルーブリックの中で一体的に可視化する。

2020年度新たに再整備したカリキュラムツリーとアセスメントプランを通じて、2021年度は本学における学びの道筋と可視化を具現化し、学生が自覚的・主体的に学習に取り組めるような態勢を整える。

②学習環境の整備と組織的運営の構造整備・改革

学習支援環境の充実を図るため、アセスメントテストを2020年度に導入した。学生の学習環境の実態を把握し、そのアセスメント結果を授業担当者別かつアドバイザー別に結果を開示し、授業運営の手立て【往還型の授業への取り組み】とするよう促進する。

また、離学希望者の学習生活での躓きの要因を探り、具体的な手立てを講じる。

③教育内容の体系化の充実

（上記ルーブリックに沿ったシラバス作成要綱の更新と運用）

④新たな教育方法の導入に向けた継続的な取り組み

- ・1時限の授業時間15分拡大(105分授業)／前期・後期、各期13週 開始
アクティブラーニング（能動的学習・課題解決型学習（PBL））等の促進
授業担当者に対する往還型学習の促進 Google Classroom への転換と活用
実習実施期間の弾力的運用（COVID-19感染拡大予防対策）

- ・アンケート調査の開始(2019年度)と実績分析

- ・ラーニングセンターwillの運営管理

- ・非常勤講師のオフィスアワーの明確化

（オフィスアワーの明確化と非常勤講師の学生対応の再評価）

- ・COVID-19感染への徹底した防止対策に基づく教育方法の促進

分散登校・対面授業の実施に対応する授業方法の提示↓

有事の場合のオンラインのみの授業配信(在宅配信・在宅受信型授業)の模索

- ・オンライン授業促進ワーキンググループとの連携と教育内容の質の担保

（オンライン授業(Google Classroom・Zoom・YouTubeアプリケーション)の有効活用)

⑤実習教育を中心としたサービスラーニングのあり方の検討

実習教育との協働を図るため、実習サポート委員会と連携する

2020年度2月期の実習中止による実習教育の補完と内容の担保

(2021年度学事【前期・教育実習実施前】に、実習(主に施設)のための期間を設ける)

⑥ハード面における環境整備の提案

- ・ COVID-19 感染拡大予防に対応した教室環境整備
- ・ 教室教育用機器備品についての整備の充実、及び学生ホールや食堂の学習室（カフェ）化
- ・ IT 教育環境の整備（学生ホール・及び IT 関連授業の教室環境整備）
- ・ 上記①～⑥を踏まえ、学習効果の可視化を目的に、学生の学習、教員の授業効果の ICT 化を実現する。

⑦障がい、その他の特別な配慮を要する学生への支援のあり方の検討

（「障がいのある学生等修学支援委員会」との協働）

- ・ 2020 年度生の調査 2020 年 2 月 12 日
2020 年度生に関しては、2019 年度第 3 回入学前教育（2 月）時点で 80 名調査書未提出
→必要に応じてクラス編成時に配慮
（2020 年 2 月時点では、男子 1 名：極度の偏頭痛）
- ・ 2021 年度生に関しては、12 月の第 1 回入学前教育で提示(第 4 回入学前教育時提出予定)

⑧キャリアデザインセンター、ラーニングセンターwill、及び PC 教室（212）の各目的別支援員の配属と職務内容の確認（特に Google Classroom への転換とスムーズな運営のための人材確保）

⑨「職業訓練委託生」のクラス配置と学習支援

- ・ 学習支援の実態について、具体的に省察したことがらについて、全教員に周知を図る。

⑩「社会人学生」のクラス配置と学習支援

- ・ 学習支援の実態について、具体的に省察したことがらについて、全教員に周知を図る。

⑪研究活動の充実

教員の学務への対応が煩雑になり、研究活動の時間確保が困難になりつつある。また 2020 年度は COVID-19 感染に伴う緊急事態宣言の影響で、学事が大幅にずれ込み、夏期休暇(教員の研究活動期間)が大幅に縮小した。働き方改革と伴い、研究のための一定の期間と時間が確保されるよう、学事を工夫する。

また COVID-19 の感染状況にかかわらず、新たな教育(授業)方法【ICT 化】に向けた取り組みの実践的授業研究を促進する。特に 2020 年度より需要の高まったオンライン授業に関する教育の質的研究を促していく(『教職研究』へ)

研究紀要・教職研究への投稿、及び学会参加・発表、共同研究等へ促進を図ると共に、研究調査倫理(私的財産、知的財産、個人情報保護)の徹底。

⑫全教員打ち合わせ会の充実

2021 年度の本学の教育改革(特に「105 分授業開始」1 時限の授業時間 15 分拡大/前期・後期、各期 13 週)へのコンセンサスを図るために、従前より行ってきた本会議の運営をさらに充実させるために、2021 年度の打ち合わせ会を 2021 年 3 月中に行う。

⑬市内高校校長との教育研究会

学内の教育体制は高く評価を受けてはいるが、2020 年度はやむなく(COVID-19 のため)中止とした。これまでの実施においては高校生や入試担当教員の間ではそれが評価を受けにくい状況にあるため、アドミッションオフィスと協働しながら、上記①～⑥の共有や入学前教育の質を高めるために協議を行うとともに、「保育職」への社会的理解を高めていくための会

となるようにする。

⑭ティーチング・ポートフォリオの開発

アクティブ・ラーニングの実際、課題内容の共有・調整。

(2) 学びの組織的支援

①ICT化への取り組みと共にポートフォリオの更新と取り組み内容・方法の工夫

オンライン授業促進ワーキンググループ・ポートフォリオワーキンググループとの協働

また「オンライン授業促進ワーキンググループ」を前身として、新たに「メディアサポートセンター」に改組改名し、急務となるオンライン、オンタイム授業の促進サポートのみならず、ICT化に伴う全ての業務を一本化し組織的総合的なサポートが可能な体制を構築する

②保育者養成(幼稚園教諭・保育士共に)のカリキュラムについて、特に現場実習中止に備えて、学内実習教育を再構築し、保育者養成の質を担保する。

③中途退学(離学者)防止に向けた取組みの充実(「離学者検討委員会」との協働)

④キャリアデザインセンター、ラーニングセンターwill支援者を中心とする「保育者を目指す学びへの支援」に関するカリキュラムの検討(キャリアデザインⅠⅡへの授業化。リメディアル教育を含む)。(「キャリアデザイン委員会」との協働)

⑤入学前教育の内容更新と充実(方法・内容等の再検討)

⑥学生アンケートの実施による学生の意識、学習の状況等の情報収集と教育実践の向上に向けた反映
また、学習成果について、学生が理解しやすい可視化のあり方を探る。

⑦学びの組織的支援充実のための構造整備(教務委員会下部組織の整備と確認)

⑧学習時間の保障を軸に、シラバス作成要項(方針)を綿密に作成し、講義・演習の組織的な運用を目指す。

⑨初年次教育(大学におけるスタートカリキュラム)のあり方を模索する(下記(4)-②⑥を含む)。

(3) 学習の評価

①アセスメントプラン策定に向けた検討

②学習ループリックに関する検討(2020年度:試験的運用 2021年度:完成年度)

③自主的な学習の評価に関する検討(ループリックポリシー<仮名>の検討)

④成績評価の厳格な運用の推進

⑤学習成果のフィードバックのあり方に関する検討

(4) 連携活動

①学校間連携の充実(保育士養成施設協議会、日本社会福祉教育学校連盟、キリスト教保育連盟 等)

②高大連携プログラムの充実(聴講生受け入れ、市内高校長との教育研究会開催 等)

③産官学連携のあり方の検討(日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園・認定こども園協会、相模原市保育連絡協議会、相模原市高齢者福祉施設協議会 等)

④地域連携のあり方の検討(地域連携推進センター委員会と協働)

⑤専門職団体等との連携の充実(キリスト教保育連盟、日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園・認定こども園協会、相模原市保育連絡協議会、神奈川県保育士会、神奈川県介護福祉士会 等との協働によるキャリアパス<キャリアアップ講習>の具体的構築 下記(5) -

①と関連)

- ⑥保証人との連携の充実(保証人会の開催、保証人への成績通知 等、「学生委員会」との連携)
- ⑦保育実習指導者研修への参入(全国保育士養成協議会、横浜市、相模原市保育課)

(5) 生涯教育

- ①リカレント教育の縮小と地域への講師貢献の促進(リカレント教育のあり方に関する再検討、卒業生調査の実施、保育士・幼稚園教諭特例制度に係る講習会の開催、現職研修への講師派遣 等) IR 委員会、地域連携推進委員会と協働
- ②大学公開講座の充実(相模原市との共催 等)

(6) キャリア教育の推進

- ①キャリア教育の推進(キャリアデザインセンター、ポートフォリオ、保育・福祉専門職のキャリア教育のあり方の検討 等、「学生委員会」「キャリアデザイン委員会」との協働)
- ②資格取得支援(保育士、幼稚園教諭免許、おもちゃインストラクター、その他)
- ③「保育ふれ合い体験(保育園)」・「福祉ふれ合い体験」のカリキュラム化と体験の充実化「幼稚園保育体験」のカリキュラム化
- ④休日月曜授業日の「ホームカミング」としての積極的活用の検討
- ⑤2020年度生前期授業期間内に「福祉を学ぶアクティブラーニング期間」(仮名)を設定する(2021年2月 COVID-19感染拡大のための実習中止の為)

(7) FD 活動の充実

- ①自己点検・評価報告書の作成(「自己点検・評価委員会」との協働)
- ②学生による授業評価の改善及び公表のあり方の検討(ICT教育の内容と方法の検討含む)
- ③学生による授業評価の活用方法の検討(回数、時期、方法、結果の提示方法)
- ④教員懇談会・教職員懇談会の開催
- ⑤全教員参加のFD研修会開催(「ファカルティディベロップメント委員会」との協働)
- ⑥学生FD委員会活動への支援

(8) 教員の交流と研究活動の支援

- ①全教員打ち合わせ会及び授業内調整会の充実
- ②教員の研究活動の推進
(研究費の活用、外部研究資金調達への支援 研究日及び研究期間の保障等)
- ③文部科学省等による外部資金獲得に向けた検討

(9) 情報公開・情報収集の推進

- ①自己点検・評価報告書の公表(「自己点検・評価委員会」との協働)
- ②教員情報の公表(公表方法・公表項目の検討 等)
- ③保育・幼児教育関係の動向に関する情報収集(「IR委員会」との協働)
- ④保育士養成課程/幼稚園教諭養成課程の動向に関する情報収集(「IR委員会」との協働)

- (10) 教職課程認定ワーキンググループ (WG) の運営 (2017年度10月～継続課題)
- ①教職課程再課程 (幼稚園教諭) 認定において記される新課程を、本学のカリキュラムポリシーに照合し、再構築した上で、カリキュラムツリーを更新。
 - ②講義・演習の質の向上と教職課程の科目に準ずる研究業績の保存・蓄積を兼ね、論集『教職研究』を出版。主に担当科目の授業研究等に関する研究結果を掲載。
- (11) 「授業時間の105分化に伴うアクティブラーニングの促進」と「授業開講時期の短縮」への工夫を促進
- 養成カリキュラムが過密になり、長期休暇が短くなっていることを鑑み、1回分の授業を15分延長すると共に、 90×15 回+テスト(1350分+テスト) $\Rightarrow 105 \times 12$ 回+13回目90分(まとめ・テスト)に変換することで、開講期間を前期・後期で各2週間ずつ短縮でき、2021年度から実施。
- そのため、2021年度の授業計画(シラバス)の作成方針や要項、13回授業案を2020年度内に作成し、全教員に配信配布しコンセンサスを得ている。
- (12) COVID-19感染拡大予防に対する2021年度授業運営の見通し
- COVID-19感染拡大状況やワクチン接種率(優先順位:2021年1月時点では未確定)に依拠するが、少なくとも2021年度の前期授業運営は、分散登校・対面授業の継続が見込まれる。
- この際、上記(11)に基づき、各授業:前期6回対面・6回オンライン 1回合同(学習のまとめ)を原則に運営を図る。ただし上記授業13週期間内。
- 2年生は「福祉を学ぶアクティブラーニング期間」(仮名)と教育実習(幼稚園)があるため、前期教育期間は17週間(9月の保育実習Ⅱを含めると20週間)にわたる見込み。
- また、2021年度後期授業は、従来の登校・対面授業を願っているが、状況によっては前期同様の分散登校・対面授業の実施を強いられる可能性も大きい。
- いずれにせよ、2021年度授業運営は、学事関連委員会(主に学生委員会・実習サポートセンター委員会)と連携、協議を図りながら、学内運営協議会・教授会の承認をその都度得ながら、実施していくものとする。

学生委員会 (学生部長 山本 美貴子)

1. 学生生活の支援に関する業務
 - (1) 学生への教育内容・連絡事項の周知に関する業務
 - ①学生サポートブックの編纂
 - ②掲示板での周知
 - ③HP・GoogleClassroomでの配信
 - (2) アドバイザーによるグループ指導の支援に関する業務
 - ①グループミーティングのスケジュール立案
 - ②キャンパスライフアワーについて連絡・調整
 - ③学生カードの受付・管理・個々の状況や指導内容の共有

- (3) スクールバス利用に関する業務
 - ①利用マナーの向上に関する検討・周知
 - ②快適な車内環境に関する連絡・調整
 - ③学生との交流に関する支援（卒業時 4名へのお礼状の作成など）

- 2. 学生の健康に関する業務・・・健康管理センター運営委員会・障がいのある学生等修学支援委員会
 - (1) 健康管理センターに関する業務
 - ①保健室の利用に関する連絡・調整・記録の作成
 - ②学生相談室の利用に関する連絡・調整・記録の作成
 - ③学生の利用ルールの検討・周知
 - ④グループアドバイザー・各委員会との連携
 - ⑤健康教育の立案・調整・実施
 - (2) 健康診断に関する業務
 - ①学事予定における日程調整
 - ②担当病院との連絡・調整・支援
 - ②各委員会・ユニットとの連携
 - ③学生への当日の手順・ルールなどの周知
 - ③健康診断結果の配布・調整
 - (3) 普通救命講習Ⅲに関する業務
 - ①委託先との日程調整・連絡・支援
 - ②学生への周知・受講に関する支援
 - (4) 障がいのある学生等修学支援に関する業務
 - ①申請書の受付
 - ②障がいのある学生等修学支援委員会の召集（日程調整・連絡）
 - ③申請内容・支援内容の検討
 - ④教務委員会・グループアドバイザーとの連携（依頼書の作成・情報の提供）

- 3. 新型コロナウイルス感染症に関する業務
 - (1) 新型コロナウイルス感染症対策に関する業務
 - ①新型コロナウイルス感染症の情報収集
 - ②新型コロナウイルス感染症に関する学内のルール・フォーマットなどの作成
 - ③新型コロナウイルス感染症に関する情報の周知（HP・GoogoeClassroom）
 - ④感染症対策のための学内の環境整備の検討・周知
 - (2) 体調に変化がある学生に関する業務
 - ①毎日の体調不良の学生の連絡窓口・相談・指導
 - ②本学教職員、特別対策委員会・危機管理委員会などへの情報提供・連携
 - ③感染者発生時の行政などへの報告・HPでの情報公開

4. 進路支援に関する業務・・・就職委員会

(1) 授業「キャリアデザイン」に関する業務

- ①年間スケジュールの立案・教務委員会との連携（一般教養試験対策講座など）
- ②学事における日程調整
- ③委託先への依頼・日程内容調整
- ③教室・担当者の決定・周知
- ④提出レポートの管理・アドバイザーとの連携

(2) 就職支援に関する業務

- ①学生への進路に関するルールの周知（サポートブック・キャリアデザイン）
- ②学生への求人情報の開示（進路支援センター内・Webサイト）
- ③就職試験に関する支援・相談・指導
- ④就職先へ募集要項受付の案内発送・ルールの周知
- ⑤就職先との連携（訪問者の面談・情報提供・本学卒業生の就労状況に関する雇用先の満足度調査－旧卒業生の雇用に関する満足度調査など）
- ⑥就職懇談会の企画・調整・実施（キャリアデザイン）

5. 学生の経済的支援に関する業務

(1) 奨学金に関する業務・・・奨学金委員会

- ①本学独自奨学金の情報提供・募集・選定・手続き支援
 - ・和泉奨学金・眞鍋記念奨学金・児童福祉奨学金・学修奨励奨学金
 - ・学生ボランティア活動奨励奨学金・愛のいずみ基金など
- ②外部奨学金の情報提供・募集・選定・手続き支援
 - ・日本学生支援機構奨学金・篠原欣子記念財団奨学金・保育士修学資金貸付金
 - ・生命保険協会介護福祉士就学資金・介護福祉士修学資金貸付金など

(2) 学生保険に関する業務

- ①学生教育研究災害傷害保険の手続き
- ②学生への情報提供・手続き支援

6. 学生の賞罰に関する業務

(1) 表彰に関する業務

- ・眞鍋記念賞・讃岐和家記念賞・中島武夫記念賞・伊藤忠利記念賞
 - ・学長賞・ボランティア活動奨励賞
- ①各賞についての周知（学生サポートブック）
 - ②教職員へ推薦者募集の周知・受付・資料作成
 - ③受賞者の選定（教授会）・受賞者への連絡
 - ④表彰式の日程調整・贈呈者へ依頼・実施
 - ⑤情報の公開（HP・IZUMI NEWS など）

(2) 懲戒処分に関する業務

- ①事象発生の把握・情報収集
- ②危機管理委員会への情報提供・日程調整

- ③当該学生（保証人）への連絡・手続きの支援
- ④情報の公開の検討・調整・実施

7. 学友会・各種学生の委員会活動に関する業務

(1) 学友会活動への支援に関する業務

- ①新入生オリエンテーションでのガイダンス支援（2月末実習指導授業時の準備など）
- ②サークル勧誘デーの支援（準備・機材など）
- ③学友会総会5月・12月開催の支援
（日程調整、委任状・アンケート準備、予算案・活動計画）
- ④学校行事・企画に関する支援
（いずみ祭・講演会などの企画・連絡・調整・実施など）
- ⑤その他の学生活動との連携の支援
- ⑥大学との意見交換の支援
（アンケート・要望書作成の支援、意見交換会7月学長・1月学生委員会）
- ⑦執行部の活動の支援
（学友会運営の支援・後期1年生執行部決めの支援・総会準備）
- ⑧関係各所との関係作りの支援（バスドライバーなどへのお礼状作成）

(2) 各種学生の委員会活動（SA委員会など）への支援

- ①学生の委員会・人数の検討・調整
- ②委員会と活動内容の周知（学生サポートブック）
- ③入学・進級時オリエンテーションでの周知
- ④グループアドバイザーへの情報提供・委員決定の依頼
- ⑤各委員会の活動支援

(3) いずみ祭に関する業務

※新型コロナウイルス感染症対策により内容変更・実習サポート委員会との連携

- ①学事における日程調整
- ②年間の活動スケジュールの立案・調整
- ③学友会・学生の委員会との連携・活動支援
- ④外部各社・地域との連絡・相談などの支援
- ⑤各ユニットとの連携（情報提供・日程調整・職務分掌・打ち合わせ会など）
- ⑥グループ活動費の支給・手続きの支援
- ⑦健康測定コーナー運営の支援（市役所との連携）

(4) 卒業式・卒業パーティーに関する業務

- ①学事予定における日程調整
- ②父母会との連携（ガウン貸し出し支援）
- ③卒業イベント委員会への情報提供・開催準備の支援
- ④父母会・講演会・同窓会・協力各社宛 招待状（感謝状）の作成・発送の支援
- ⑤外部業者への発注・調整の支援（食事・備品・暖房器具・音響・撮影・花束など）
- ⑥当日進行の支援（タイムテーブル・司会台本・企画・景品など）
- ⑦会場設営の支援（装飾・舞台用講義台・床シート・椅子など）

8. 課外活動に関する業務

- (1) 課外サークル活動への支援に関する業務
 - ①活動申請の支援（活動申請書）
 - ②オリエンテーションでの勧誘活動の支援
 - ③学内活動の支援（日時・活動場所届など）
 - ④サークルバスの運行に関する支援
 - ⑤サークル活動日の警備員の依頼・調整
 - ⑥サークル活動日の職員の勤務調整
- (2) 学外活動に関する支援
 - ①予算申請（登録・交通費・引率など）
 - ②試合などの出場に関する支援（情報共有・登録・日程調整・交通費申請など）
 - ③当日参加のための支援（交通手段・引率・応援など）

9. 保証人・父母会・後援会に関する業務

- (1) 保証人との連携に関する業務
 - ①保証人会の日程調整・周知・準備・運営
- (2) 父母会との連携に関する業務
 - ①父母会総会の開催の支援（通知・記録など）
 - ②父母会報の発行の支援（データ・写真提供）
 - ③父母会活動の支援（業者との調整－植栽・観葉植物・卒業ガウン保管など）
- (3) 後援会との連携に関する業務
 - ①後援会活動の支援（活動計画・活動予定・予算）
 - ②後援会総会開催の支援（日程調整・通知・会場準備・記録）
 - ③会報発行の支援（データ・写真提供）

10. 卒業生に関する業務

- (1) 卒業生アンケートの実施（作成・発送・集計分析・HP公表）
2020年度11月補助金申請設定期間5月～10月以降に実施
- (2) 就職情報の提供（既卒者募集情報）
- (3) 住所・氏名変更などの受付・登録

2021年度重点課題

- (1) 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策
- (2) 健康管理センターの機能の充実
 - ①運用（学生指導・教育による予防の充実）
 - ②コロナ対応に関する役割分担（健康状況の記録・電話相談など）
 - ②保健室運営規程・学生相談室運営規程
 - ③保健室の環境整備計画の策定（男女別・感染症対策）
- (3) SA委員会の支援（役割分担・活動内容の検討）
- (4) コロナ禍での学友会・その他の委員会活動の支援

- (5) コロナ禍でのいずみ祭などの検討・実習サポート委員会との連携
- (6) キャリアデザイン 授業内容の検討、教務委員会との連携・調整
- (7) バスのマナーの向上・新しい交流方法の模索
- (8) ステークホルダーとの連携強化を図る。
- (9) 卒業生アンケート調査の回答率UPの対策
- (10) 卒業生の就労状況の雇用先満足度調査（雇用に関する満足度調査）の充実を図る。

入試広報委員会（入試広報部長 松山 洋平）

1. 広報関係

- ①学園報（IZUMI NEWS）の発行（4回 / 年）
- ②入学案内冊子の作成及び充実のための検討
- ③教育力可視化リーフレット作成（高校教員、保護者向け）
- ④進学相談会等（高校教員向け2回、市内高校保育・高大接続授業研究プログラム）
- ⑤ミニオープンキャンパス25回、ナイトミニオープンキャンパス8回、個別相談会2回、LINE 個別相談随時、web オープンキャンパス、web 入試対策の開催及び充実のための検討
（イベント型と非対話型によるハイブリッド型戦略）
学生スタッフの育成
- ⑥ワークスタディ学生の育成
- ⑦高等学校進路説明会（進学説明、オンライン含む・模擬授業）の開催及び充実のための検討
- ⑧公開講座（市民大学・さがまちカレッジ等）の開催及び充実のための検討
- ⑨公開授業（市内小学校・中学校・高校[高大接続授業]）の開催及び充実のための検討
- ⑩和泉プレカレッジ（和泉短期大学授業体験会・高校1・2年生向け模擬授業）の開催及び充実のための検討
- ⑪ホームページ及びSNS（ツイッター、ライン、フェイスブック、インスタグラム）によるニュース配信や充実のための検討
- ⑫NEWS LETTERによるニュース配信や充実のための検討
- ⑬教職員説明会の開催
- ⑭同窓会との交流
- ⑮その他の広報活動の遂行

2. 入試関係

- ①入試戦略Web出願の実施（各入試の内容・方法の充実等）の検討
- ②総合型選抜エントリー予約
- ③入試：総合型選抜I期～V期10回、学校推薦型選抜（指定校推薦2回、公募推薦、専門高校推薦、卒業生・在学生家族推薦、キリスト者推薦各1回）、社会人特別選抜、一般選抜）の公正かつ適正な実施
神奈川県専門人材育成コース 委託訓練生の募集
- ④他大学の入試関係データ収集
- ⑤他大学の入学者状況の把握
- ⑥その他の入試関係業務の遂行

1. 実習に関する業務

(1) 実習先施設の選定・連絡・調整

- ① 実習依頼・実習配属に関わる連絡・調整
- ② 実習指導連絡会の実施（保育実習・教育実習／年2回）
- ③ 「実習・実習指導 実施要項－実習指導のミニマムディマンド」作成と実習先への送付

(2) 実習実施に関わる業務

- ① 保育実習Ⅰ（保育所・施設）実習先確保と1月期・2月期調整
- ② 上記①の実施期間の一本化への努力（1月期：保育所、2月期：施設）
- ③ 登録課題（希望実習先レポート）の受付と配属
- ④ 学生の諸手続の支援（希望実習先レポート、実習生個人票、各種検査結果の扱い、実習の記録、実習定期等）
- ⑤ 実習指導担当教員への学生の事前事後学習状況の把握・実習中止に関する手続き等の支援（各種フォーマットの作成、配布）
- ⑥ 腸内細菌検査・予防接種抗体検査等に関する伝達・調整（実習先・学生・教員）
- ⑦ 健康管理センターとの連携（専門職としての健康等に関する指導、健康状況に関する相談・連携、検査結果の理解等）
- ⑧ 巡回指導担当教員の巡回先希望調査、配属調整、発表。
- ⑨ 巡回指導にかかわる手土産・謝礼・交通費などの手続き。
- ⑩ 実習に関する問い合わせの受付・伝達・調整（実習先・学生・保証人・教員）
- ⑪ 学生の実習実施状況に関する情報、実習巡回指導記録の管理。
- ⑫ 実習先パンフレット等関連資料の収集と学生への提供

(3) 学生の個別的支援を要する事例について

- ① 実習指導授業担当教員との連携・協議等
- ② 障がいのある学生等修学支援委員会との連携・協議等（実習に関する支援）

2. 実習指導授業に関する業務

(1) 授業「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「教育実習指導」の計画・立案・支援

- ① 授業実施計画の立案と実習授業・実習指導計画一覧の作成、配布
- ② 実習指導授業の企画・運営（各種：全体、1・2年生合同、実習先別、施設種別など）
- ③ 実習の事前・事後指導に活用する教材の編纂・印刷・配布
- ④ 実習事前学習としての複数面談の企画・資料作成・実施。
- ⑤ 「実習指導授業」担当教員の支援（情報提供、資料作成、予定表・フォーマット等作成等）

(2) 「実習指導授業」の内容・方法の研究・改訂

- ① 実習授業・実習指導計画の立案。授業「キャリアデザイン」・学事との日程調整。
- ② 「実習ルールブック」作成、配布
- ③ 実習の記録（日誌）の作成、配布
- ④ 実習評価票、出勤票の作成、配布
- ⑤ 改訂版「実習ステップブック」の活用。（発行日までの教材準備）

- ⑥ SA（スチューデント・アシスタント）への支援、指導
 - (3) 他授業・委員会と関連した業務
 - ① 「ふれあい体験・ボランティア活動」と連携し、実習指導授業内で保育を学ぶ学生のマナー・モラルについての授業を実施
 - ② 学生の実習支援に関して健康管理センター（健康管理センター運営委員会）・障がいのある学生等修学支援委員会との連携
3. 2021年度の重点課題
- (1) 上記1. 2. について、コロナ禍での業務となった2020年度の実績や経験を基にして、2021年度も状況に応じつつ着実にやっていく。
 - (2) 実習指導連絡会の充実のため、教務委員会、学生委員会と連携する。また会場変更に伴う実施方法の確認を綿密に行う。
 - (3) 引き続き、個別的支援を要する学生への対応について、健康管理センター・各部署・授業担当教員との連携・協議を図る。（新型コロナウイルス緊急対策特別委員会、障がいのある学生等修学支援申請書による円滑な連携・支援方法、学生委員会・授業担当教員ほかとの具体的な連携方法の構築）
 - (4) CDC委員会、ポートフォリオWGとの連携による実習指導内容の精査・充実。
ポートフォリオ・GoogleClassroomを活用した学生への連絡について検討・充実。特に2020年度から実施した事前学習教材「生活技術に関する資料」の検証・活用
 - (5) 2021年度実習サポートセンター体制での職務分掌・作業や連絡時期と方法の検討、2020年度の協力体制・支援の質の維持を実現する。更に迅速・丁寧・正確・充実した学生・指導担当教員の支援の向上を目指す。
 - (6) 実習管理システムの改善を継続し、情報提供の質の向上を図る。
 - (7) 引き続き、実習先・学生・授業担当教員・関連部署との確実な連絡・調整・協議を可能にする支援・作業方法の周知を目指す（書類・各種フローチャート・メール・電話等）
 - (8) 引き続き、実習ごとに定められた実習(学習)の内容・目標、本学の実習実施・単位認定のルールなど、基礎的・基本的な実習指導内容を確実に修められる、全クラス共通のカリキュラムの実践を目指し、テキスト「実習ステップブック」・「実習ルールブック」・「実習の記録」を活用した授業実践支援方法の研究・改善・充実に努める。
 - (9) 学生の事前・実習中・事後の学習の充実・向上に関わる「実習の記録」（日誌）の作成や、実習目標の内容理解について、実習指導以外の授業科目との連携を図り、指導内容の向上を目指す。
 - (10) 学習意欲・学習効果を高め、学習の目標を明確にイメージする授業内容を目指す。グループ・全体・1.2年生共同・グループ合同・施設種別・実習先別授業など学習内容に最適な授業形態を工夫、またLCW・CDCを活用した自己学習の連携・構成を図る。

地域連携推進センター委員会（委員長 鈴木 敏彦）

本委員会のもとに以下の委員会を置き、それぞれのワーキンググループを中心に活動を行う。

【図書委員会】（委員長 鈴木敏彦）

1. COVID-19 感染予防対策の徹底

- ①館内換気の徹底
- ②館内入場者数の制限
- ③入場時の手指消毒・マスク着用の徹底
- ④カウンターへのビニールカーテンの設置
- ⑤カウンター対応時等のソーシャルディスタンス確保の徹底
- ⑥返却資料への対応
- 2. 研究紀要発行に関する検討
 - ①査読付き論文を含む研究紀要第 42 号の発行
 - ②研究紀要の電子化の検討
- 3. 特設展示の充実
 - ①新着図書紹介
 - ②各種特集図書の別置・企画展示
- 4. 蔵書の充実
 - ①保育に関する専門書及び絵本の充実
 - ②選書バイヤーツアーによる蔵書購入
- 5. 図書館利用者サービスの向上
 - ①書架案内表示の充実
 - ②AVルーム・共同研究室の充実
 - ③卒業生・入学予定者の利用について周知する。
 - ④すまいるい参加者・市民大学講座受講者等、地域住民が利用しやすい環境づくりに努める。
- 6. 図書館利用者のモラル向上
 - ①人的環境整備（掲示・声かけ等の取り組み強化）
 - ②図書未返却者への督促強化
 - ③資料の紛失等への対策強化
 - ④利用者の拡大に伴う防犯対策の充実
- 7. 図書館ワークスタディアルバイト学生の活用
- 8. 図書館サポーター活動の充実
 - ①選書ツアー（4. ②）
 - ②POP製作・展示
 - ③学生からの意見・提案聴取
- 9. 図書館主宰イベントの実施
 - ①折り紙コンテスト
 - ②クリスマスイベント（お楽しみ抽選会）
 - ③その他（館内上映会開催等）
- 10. 図書館ホームページの充実
- 11. ラーニングセンターwill との連携
- 12. 相模原市内大学図書館と相模原市立図書館との相互協力連絡会への参加
- 13. 全国図書館大会（山梨＝オンライン開催）への参加

【地域連携推進委員会】（委員長 井狩芳子）

地域と連携して行う活動の窓口となり、定例的に行っている以下の活動を中心に、随時地域貢献事業を検討、実施する。

I. 地域連携プログラムワーキンググループ（委員長 井狩芳子）

1. 学生のボランティア活動の支援・情報提供

① ボランティア募集に関する情報提供と実施に関する支援

- ・ボランティア活動の推奨、パンフレット・チラシ・ポスター等の掲示・配付
- ・ボランティア活動届の配付・受付

② 相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度への応募促進

- ・学生に対するボランティア活動の推奨と本制度の周知
- ・相模原市への推薦業務

③ 学生サークル等のボランティア活動支援

2. オレンジリボン活動（相模原市包括連携協定校事業関連）への協力と協働

① オレンジリボン作成・街頭配布への学生参加促進

② 図書館内に子ども虐待防止啓発コーナーの設置、学内とユニコムプラザ内本学ブースにオレンジリボン配置

③ 学内に子ども虐待防止の啓発ポスター等の掲示

3. ユニコムプラザ関連事業への協力

① 第9回まちづくりフェスタ参加

② その他関連事業への協力

4. さがまちコンソーシアム関連

① 令和3年度「市民大学」への講師派遣

② さがまちカレッジへの講師派遣

③ さがまちインターンシップ、さがまち学生 Club 等学生参加の活動の紹介と参加促進

5. 関連事項・ニュース等の把握・広報

① 相模原市中央区光が丘地区まちづくり会議への参加と協力

② 関連団体の会合出席と情報共有

II. 子育て支援プログラム（はっぴい・すまいい）ワーキンググループ（委員長 久保小枝子）

1. 子育てひろば「はっぴい」の開催（年間10回＝4.8月を除く毎月1回、土曜日）

① 子育て家族への支援

安心・安全な遊び場の提供と、季節に応じた活動、良質の文化・芸術に触れる体験の提供
保育支援者によるサポート体制を整え、参加者からの相談に応じる。

ワーキンググループ委員の他、専任教員の参加（年1回）

② 学生に実践的な学びの場を提供する

乳幼児とのふれあい・保護者とのコミュニケーションの場の提供

学生主体の企画を発表する場の提供

事前準備から当日終了までの計画立案・環境整備に関わる機会の提供

参加学生との交流・実践的研修の提供

③入学前教育プログラムとして高校生参加の機会を設定する

④卒業生との連携

活動時のボランティア受け入れ

子育て世代の親子参加の促進

同窓会広報活動への協力

⑤その他

参加保護者への聞き取り、学生への調査を実施し、地域貢献活動のあり方・学生の現状と要望を探る

2. CDC の整備及び子育てひろば「すまいいい」(施設開放：毎週木曜日の実施) との連携

①地域親子に CDC を遊び場、子育て支援の場として開放する

保育環境として相応しい維持整備を継続する

②学生の保育就業力を支える実践の場としての環境整備

* COVID-19 感染状況により、感染拡大防止の観点から 2020 年度同様に地域への開放を行わない可能性があり、その場合は、本学ウェブサイトより中止を知らせる。

* 「はっぴい」「すまいいい」活動が中止された場合には、登録ボランティア学生を対象に、子育て支援における教材研究(年2回)を行う。

児童福祉研究室(室長 矢野 由佳子)

児童福祉研究室は、法人創立 60 周年を機に、和泉短期大学の建学の精神である「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を具現化するため 2017 年 11 月に設立された。その目的は本学教員の専門性および教育研究活動の成果を発信し、地域の保育・福祉に貢献することにある。この目的を達成するために、児童福祉研究室が行う事業として次の 5 項目が和泉短期大学児童福祉研究室規程に定められている。

- (1) 保育・福祉に関する研究および研修会・講演会の開催等
- (2) 本学の教育研究活動に基づく地域保育・福祉に寄与する刊行物の発行
- (3) 地域住民を対象とした保育・福祉に関する相談支援
- (4) 定年退職者の最終講義録の刊行物掲載
- (5) その他、児童福祉研究室の目的の達成に必要な活動

まずは、(2)本学の教育研究活動に基づく地域保育・福祉に寄与する刊行物の発行に相当する事業を展開するために、2018 年度より児童福祉研究「いっしょに子育て」を年 1 回発刊することを定めた。そこで、2021 年度においても、引き続き「いっしょに子育て」第 4 号を発行して、子育てに関する親しみやすい内容を提供すると同時に、地域住民と和泉短期大学の結びつきの強化を図りたいと考えている。

2021 年発行の児童福祉研究「いっしょに子育て」第 4 号の大枠は以下を計画している。

- ① 子どもの育ちに関する専門的知見からの提言

- ② 保育・福祉に関する教育研究活動に基づいた提言
- ③ 海外の保育・子育て事情に関するレポート（インターナショナルフィールドワークが実施された場合）
- ④ 子育てに役立つ情報提供等

また、2020年度は地域の子育てへの更なる貢献を目指して、(3) 地域住民を対象とした保育・福祉に関する相談支援 に関わる活動について検討を行った。これは和泉短期大学第2次中期計画に向けた取り組みのひとつである「地域連携活動の強化」において重要な位置づけにある。しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から具体的な実施には至らなかったため、2021年度においては、地域連携推進委員会および「はっぴい・すまいい WG」と慎重に協議を重ね、状況に配慮しながら、安全な形での協同開催に向けて検討を行う予定である。

7. 広報活動

(1) 製作・発行物

・入学案内書一式	2021年	3月下旬発行予定
・奨学金リーフレット	2021年	3月下旬発行予定
・オープンキャンパス告知ポスター	2021年	3月下旬配布予定
・教育力可視化リーフレット	2021年	3月下旬配布予定
・首都圏高等学校送付入学案内書パック	2021年	4月下旬発送予定
・IZUMI NEWS 49号	2021年	5月下旬発行予定
" 50号	2021年	8月上旬発行予定
" 51号	2021年	12月上旬発行予定
" 52号	2022年	3月中旬発行予定
・受験生向けダイレクトメール ①(夏のオープンキャンパス)	2021年	7月上旬発送予定
・ " ②(いずみ祭)	2021年	9月下旬発送予定
・ " ③(クリスマスカード)	2021年	12月上旬発送予定
・ " ③(3月オープンキャンパス)	2022年	2月上旬発送予定

(2) 主催型広報活動

- ・高等学校教員対象進学説明会（5月に2回）
- ・高大接続授業研究プログラム（8月）
- ・和泉プレカレッジ（2月高校1・2年生対象）
- ・オレンジリボンキャンペーン（相模原市と共催）（11月）
- ・LINE個別相談（1年間随時）
- ・WEBオープンキャンパス（都度）
- ・ホームページ及びSNS（ツイッター、LINE、インスタグラム、フェイスブック）情報発信
- ・ミニオープンキャンパス

第1回	4月24日（土）	14：00～16：00
第2回	5月8日（土）	14：00～16：00
第3回	5月23日（日）	10：00～12：00
第4回	5月23日（日）	14：00～16：00
第5回	6月5日（土）	14：00～16：00
第6回	6月19日（土）	10：00～12：00
第7回	6月19日（土）	14：00～16：00
第8回	7月10日（土）	10：00～12：00
第9回	7月10日（土）	14：00～16：00
第10回	7月24日（土）	10：00～12：00
第11回	7月24日（土）	14：00～16：00
第12回	7月31日（土）	10：00～12：00
第13回	7月31日（土）	14：00～16：00
第14回	8月7日（土）	10：00～12：00
第15回	8月7日（土）	14：00～16：00
第16回	8月21日（土）	10：00～12：00
第17回	8月21日（土）	14：00～16：00
第18回	8月28日（土）	10：00～12：00
第19回	8月28日（土）	14：00～16：00
第20回	9月4日（日）	14：00～16：00

第21回	11月20日(土)	14:00~16:00
第22回	3月12日(土)	10:00~12:00
第23回	3月12日(土)	14:00~16:00
第24回	3月26日(土)	10:00~12:00
第25回	3月26日(土)	14:00~16:00

・ナイトミニオープンキャンパス

第1回	7月14日(水)	17:30~19:30
第2回	9月15日(水)	17:30~19:30
第3回	9月29日(水)	17:30~19:30
第4回	10月6日(水)	17:30~19:30
第5回	10月20日(水)	17:30~19:30
第6回	10月27日(水)	17:30~19:30
第7回	12月8日(水)	17:30~19:30
第8回	1月7日(金)	17:30~19:30

・個別相談会

第1回	10月30日(土)	10:00~12:00
第2回	2月5日(土)	10:00~12:00

(3) 参加型広報活動

- ・相模原市立市民・大学交流センター内「大学情報コーナー」(通年)
- ・高等学校内ガイダンス・オンラインガイダンス・模擬授業(随時)
- ・かながわ短大フェア(神奈川県私立短期大学協会)(4月)(中止)
- ・進学相談会(会場形式)(随時)
- ・「大学で学ぼう～生涯学習フェア～」(かながわ大学生涯学習推進協議会)(7月・9月)

(4) 公開講座

- ・市民大学(相模原市・座間市と共催)前期・後期2講座
- ・さがまちカレッジ「中学生対象講座」(12月)

和泉短期大学

(1) インターネット関連

(2021年度)

広告代理店名	掲載紙等	時期
(株)ライセンスアカデミー	進路ナビ (インターネット商品)	1年間
(株)リクルートマーケティングパートナーズ	スタディサプリ進路/基本参画、学科詳細レポート (インターネット商品)	1年間
キッズコーポレーション(株)	進学ナビ (インターネット商品)	1年間
(株)昭栄広報	ポータルサイト (高校生の気持ち) ライトプラン	1年間
(株)進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK (インターネット含む) 学校見学ノート	1年間
(株)育伸	ガイドブック TRI-ANGLE (インターネット含む)	1年間
(株)マイナビ	進路のミカタ (インターネット商品)	1年間
(株)進研アド	マナビジョン短大 DPS リターゲティング広告	6月
	マナビジョン短大パッケージ (インターネット商品)	1年間
ライン(株)	LINE	1年間
(株)教育通信社	進路テキスト進学編	4月
	進路テキスト進学編 オープンキャンパス日程一覧	
(株)日東システム開発	ベスト進学ネット (インターネット商品)	4月

(2) 雑誌掲出

(2021年度)

広告代理店名	掲載紙等	時期
キッズコーポレーション(株)	進学の森 大学・短大カタログ	4月
(株)さんぽう	短期大学まるわかり事典 (東日本版)	4月
(株)進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK 学校見学ノート	4月
(株)育伸	ガイドブック TRI-ANGLE	4月
(株)進路企画	大学・短大ガイドブック	4月
(株)進研アド	マナビジョンブック (高校生活スタート号)	4月
	マナビジョン 教育力可視化リーフレット	
(株)教育通信社	進路テキスト進学編	4月
	進路テキスト進学編 オープンキャンパス日程一覧	
(株)進学教育研究社	「ガマダス」説明会配布用大学ガイド	4月
神奈川県私立短期大学協会	神奈川の私立短期大学	4月
神奈川県高等学校教科研究会	家庭部会会報	5月
(株)タウンニュース社	タウンニュース 暑中お見舞い号・名刺広告 Web 掲載	7月
	〃	元旦号・名刺広告

神奈川案内広告(株)	神奈川新聞 迎春名刺広告	1月
(株) ショッパー社	新年名刺広告	1月
(一社) キリスト教保育連盟	月刊「キリスト教保育」	10月

(3) 交通広告等掲載

(2021年度)

広告代理店名	掲 載 紙 等	時 期
神奈川中央交通(株)	バス停正式名称「和泉短大前」保守管理	1年間

2021年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

金額

(教員関係経費)

11,621

研究費	児童福祉学科	単価	×	教員数	
○ 個人研究費の改正	○ 教授	250	×	6	1,500
	○ 特任教授	250	×	1	250
	○ 准教授	240	×	7	1,680
	○ 専任講師	230	×	2	460
	○ 助教	220	×	2	440
	○ 助手	210	×	1	210
	○ 昇任予定者	10	×	2	20
	※ 新任4名			19	計 4,560
	専攻科	単価			
	○ 准教授	240	×	1	240
	○ 特任教授	250	×	1	250
	○ 特任准教授	240	×	1	240
				3	計 730
				22名	合計 (5,290)

学長裁量費

○ 共同研究費	1,300
○ 大学教育改革プログラム	
	計 1,300

合計 6,590

○ 専任・非常勤教員	2,831
○ 学会参加 1回 @50限度 1人 2回 22名	2,200

(施設)

103,121

土地	内容	設置場所	金額
○ 土地(1,536㎡)〈第2号基本金〉	スクールバス駐車場	2号館隣地	繰延 ① 100,000
※ 2020年度から繰り延べ			
○ 洋式トイレ設置工事(和式から変更)	女性用3カ所	3号館	取替更新 ② 2,189
○ 受変電設備内 プレーカー(8)、コンデンサー(1)		2号館	取替更新 ② 219
○ エアコン	4台	210教室	取替更新 ② 713
			計 (3,121)

(設備)

1,016

○ 教育研究用機器備品	○ 教員パソコンの取替更新はリース契約	0
		計 (0)
○ 管理用機器備品		0
		計 (0)
○ 図書	○ 児童福祉学科 996 専攻科 20	1,016
		計 (1,016)

2021年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

新規及び主な経費

	内 容	数	場 所		金 額
消 耗 品 費	○ 学生証(Suica他付き)	210			616
	○ 遠隔授業等のWebカメラ、スピーカー等		各教室		665
	○ シューズボックス		栄養実習室前		200
	○ 防災用品	教職員用ヘルメット	50		61
	計				(1,542)
印 刷 費	○ 児童福祉研究室	第4号(刊行誌)	2,000		422
	○ カルテファイル		221		254
	○ 学びのハンドブック		548		265
	○ 学生サポートブック(旧学生手帳)		300		615
	○ 研究紀要		350		539
	○ 教職研究		250		157
	○ 自己点検・評価報告書		250	2021年度受審	208
	計				(2,460)
光 熱 水 費	○ 電気				11,106
	○ 水道				1,580
	○ プロパンガス				1,147
計				(13,833)	
通 信 費	○ インターネット基本料、デジタルサイネージ通信料				608
	○ 保護者宛学生成績、学納金等通知、卒業生調査他				418
	○ 電話料				934
計				(1,960)	
維 持 修 繕 費	○ 女子トイレ改修工事	3号館		取替更新 ②	236
	○ ブラインド設置(ロールカーテンから取替)	1号館	各教室	取替更新 ③	2,241
	○ 小教室の照明器具(LED化)	1号館	6教室	取替更新 ④	1,635
	○ 遠隔授業 教室LAN配線工事	4教室		新 規 ⑤	347
	○ 食堂用チラー3方弁	3号館			352
	○ エレベーター機能維持工事	4号館			631
	○ 既存施設設備修繕費				2,800
	○ 構内樹木剪定	校地・グラウンド			2,977
	計				(11,219)
	支 払 報 酬 手 数 料	○ 受変電設備内 プレーカー(8)、コンデンサー(1)		2号館	取替更新 ②
○ 照明器具交換工事			1号館	取替更新 ④	477
○ アセスメントテスト(基礎力リサーチ)		各学年2回	4回	⑤	2,015
○ Zoom 法人契約アカウント使用料			387アカウント	⑤	508
○ MS包括ライセンス			54	⑤	481
○ 授業目的公衆送信保証金		著作権	420人	⑤	309
○ 電子決裁システム		D X 対応		⑦	1,381
○ Web出願システム		導入費用他		⑦	240
○ 第3回認証評価料		7年に1回	2021年度受審		1,430
○ スクールバス運行料			4台		34,448
○ 監査報酬、弁護士報酬、税理士報酬					3,843
○ 校医料、健康診断料					858
○ 食堂委託管理費					2,515
○ 管理人業務費		機械警備含む			5,952
○ 業務用システム維持支援費			教学・広報		924
○ 学生・教職員安全確認システム		後期から契約会社変更			491
計					(56,126)

2021年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

新規等の主な経費	内 容	数	場 所	金 額
賃借料	○ モバイルポケットWi-Fi	40台	学生貸与	⑤ 1,835
	○ 教員用ノートパソコン	35台	研究室他	⑤ 737
	○ コロナ対策 ウイルス除菌装置	17台	9教室	⑧ 466
	○ 複合機・印刷機	5台	1号館・2号館	464
	○ ファイアーウォール		1号館設置	782
	○ 職員用 パソコン デスクトップ	25台、サーバー2台	事務局	1,252
	○ 防犯カメラシステム一式	19か所	学内外	685
	○ ペーパーレス会議システム	23	教授会	59
	○ 学生用パソコン ノート	50台	212教室	1,532
	○ スクールバス リース(5年)	4台	大型3台、中型1台	19,451
	○ 借植木	大鉢 8、中鉢 5	1号館	385
	○ 公用車リース料	軽自動車	1台	360
	○ スクールバス駐車場賃料(2号基本金対象)	2号館隣地	1,493㎡	2,640
	計 (
奨学費 (給付)	○ 高等教育の修学制度による奨学費	40名	入学金・授業料 1年生	⑥ 34,800
	○ 高等教育の修学制度による奨学費	35名	授業料 2年生	⑥ 19,634
	○ 眞鍮記念奨学金	10名		650
	○ 児童福祉奨学金	5名	1年 2名、2年 3名	800
	○ 卒業生・在学生家族	12名		600
	○ 学修奨励奨学金	15名		1,320
	○ ボランティア活動奨励奨学金	1名		50
	○ 愛のいずみ基金奨学金	1名		500
	○ 専攻科 学業修学資金	1名		300
	計 (
広報宣伝費	○ 入学案内書、媒体広告他			19,904
	○ Web出願システム			⑦ 1,290
計 (21,194)
清掃費	○ 日常清掃、定期清掃		全館	14,573
	計 (
雑費	○ ブラインド設置 他各種工事	1号館	取替更新	③ 102
	○ SD・FD研修会費			200
	○ 朝食補助、学生フェア、ウエルカムパーティー			381
	○ 卒業パーティー補助、卒業記念品			464
	計 (

※ 主な事業計画費

①	土地取得経費	2号館隣接地	①	100,000
②	建物 トイレ洋式改修工事他	3号館 他	総額 ②	3,611
③	教室 ブラインド取替更新	1号館 各教室	総額 ③	2,343
④	小教室の照明器具のLED電球改修	1号館 6教室	取替更新 ④	2,112
⑤	遠隔教育・ICT教育関連・教育質保証可視化		総額 ⑤	6,232
⑥	奨学費(高等教育修学支援制度)他	78名 補助金対象	修学支援 ⑥	54,434
⑦	デジタル化への対応(東鑑書電子化・web出願システム)		総額 ⑦	2,911
⑧	新型コロナウイルス感染症対策 ウイルス除菌装置	9教室	新規 ⑧	466
計				172,109

資金収支計算書 (2017年度 ~ 2021年度)

学校法人和泉短期大学

(単位:千円)

		予 算				予 算
		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
収 入 の 部	科 目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
	学生生徒等納付金収入	592,494	489,802	468,648	475,520	491,060
	手数料収入	7,135	7,120	6,787	6,660	7,158
	寄付金収入	3,545	1,870	2,296	1,000	1,000
	補助金収入	61,024	50,657	39,870	59,550	89,635
	資産売却収入	0	15,756	192,852	0	0
	付随事業・収益事業収入	1,261	642	6,566	18,868	21,191
	受取利息・配当金収入	14,994	16,555	19,721	19,582	19,950
	雑収入	19,874	10,411	13,842	18,242	73,178
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	170,420	168,970	142,910	145,700	145,700
	その他の収入	20,454	50,234	26,518	123,949	137,766
	資金収入調整勘定	△ 210,822	△ 183,954	△ 182,565	△ 159,502	△ 239,213
	前年度繰越支払資金	2,120,984	2,125,578	2,031,774	1,904,164	1,290,000
合 計	2,801,363	2,753,641	2,769,219	2,613,733	2,037,425	
支 出 の 部	人件費支出	401,712	392,180	392,760	406,732	464,054
	教育研究経費支出	97,703	103,222	101,682	149,885	168,117
	管理経費支出	98,188	114,549	105,484	119,443	109,440
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	7,498	20,463	10,414	120,796	103,121
	設備関係支出	5,055	4,481	1,454	1,018	1,016
	資産運用支出	75,234	69,237	250,071	669,818	151,267
	その他の支出	7,977	23,499	12,010	15,766	21,207
	予備費支出	0	0	0	30,000	30,000
	資金支出調整勘定	△ 17,582	△ 5,764	△ 8,820	△ 13,635	△ 68,428
	翌年度繰越支払資金	2,125,578	2,031,774	1,904,164	1,113,910	1,057,631
	合 計	2,801,363	2,753,641	2,769,219	2,613,733	2,037,425
資金収支差額		4,594	△ 93,804	△ 127,610	△ 790,254	△ 232,369
短期大学学生数		481名	404名	387名	401名	407名
収用定員500名)充足率		95.8%	80.8%	78.6%	80.4%	81.4%
専門学校(専攻科)学生数		23名	8名	4名	15名	21名
前年度対比学生数		△79名	△92名	△ 21名	25名	12名

事業活動収支計算書 (2017年度 ~ 2021年度)

学校法人和泉短期大学 (単位:千円)

科 目	2017年度		2018年度		2019年度		予 算 2020年度		予 算 2021年度			
	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率		
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	592,494	85.3%	489,802	86.0%	468,648	84.7%	475,520	79.3%	491,060	69.8%	
	手数料	7,135	1.0%	7,120	1.3%	6,787	1.2%	6,660	1.1%	7,158	1.0%	
	寄付金	3,628	0.5%	1,870	0.3%	2,376	0.4%	1,176	0.2%	1,000	0.1%	
	経常費補助金	55,608	8.0%	40,453	7.1%	35,270	6.4%	59,550	9.9%	89,635	12.7%	
	付随事業収入	1,261	0.2%	642	0.1%	6,566	1.2%	18,868	3.1%	21,191	3.0%	
	雑収入	19,874	2.9%	13,097	2.3%	13,834	2.5%	18,242	3.0%	73,178	10.4%	
	教育活動収入計	680,000	97.8%	552,984	97.1%	533,481	96.4%	580,016	96.7%	683,222	97.2%	
	教育活動支出の部	人件費	398,813	57.4%	390,102	68.5%	390,039	70.5%	401,764	67.0%	457,886	65.1%
		教育研究経費支出	156,490	22.5%	162,281	28.5%	163,636	29.6%	204,556	34.1%	218,795	31.1%
		(減価償却額)	58,703	8.9%	59,061	8.8%	61,882	9.3%	54,495	7.4%	50,678	6.4%
		管理経費支出	105,753	15.2%	121,618	21.4%	112,962	20.4%	127,134	21.2%	116,946	16.6%
		(減価償却額)	7,369	1.1%	7,369	1.1%	7,375	1.1%	7,691	1.0%	7,506	0.9%
		教育活動支出計	661,056	95.1%	674,001	118.3%	666,637	120.5%	733,454	122.3%	793,627	112.9%
	教育活動収支差額	18,944	2.8%	△ 121,017	-21.9%	△ 133,156	-25.0%	△ 153,438	-26.5%	△ 110,405	-16.2%	
教育活動外収支の部	資産運用収入	14,994	2.2%	16,555	2.9%	19,721	3.6%	19,582	3.3%	19,950	2.8%	
	教育活動外収入計	14,994		16,555		19,721		19,582		19,950		
	教育活動外支出計	0		0		0		0		0		
	教育活動外収支差額	14,994		16,555		19,721		19,582		19,950		
経常収支差額	33,938	4.9%	△ 104,462	-18.3%	△ 113,435	-20.5%	△ 133,856	-22.3%	△ 90,455	-12.9%		
特別収支の部	資産売却差額	0		15,756		12,852		0		0		
	その他の特別収入	7,785	1.1%	10,636	1.8%	4,608	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	
	特別収入計	7,785		26,392		17,460		0		0		
	資産処分差額	654		328		2,531						
	その他の特別支出	662		495		8		0		0		
	特別支出計	1,316		823		2,539		0		0		
特別収支差額	6,469		25,569		14,921		0		0			
【予備費】							30,000		30,000			
事業活動収入	702,779		595,931		570,662		599,598		703,172			
事業活動支出	662,372		674,824		669,176		763,454		823,627			
基本金組入前当年度収支差額 = 事業活動収支差額	40,407		△ 78,893		△ 98,514		△ 163,856		△ 120,455			
基本金組入額	△ 10,657		△ 22,327		△ 4,723		△ 9,580		△ 3,536			
当年度収支差額	29,750		△ 101,220		△ 103,237		△ 173,436		△ 123,991			
前年度繰越収支差額	2,927,575		2,957,325		2,856,105		2,752,869		2,579,433			
基本金取崩額	0		0		0		0		0			
翌年度繰越収支差額	2,957,325		2,856,105		2,752,869		2,579,433		2,455,442			
事業活動収支差額比率	5.7%		-13.2%		-17.3%		-27.3%		-17.1%			
教育活動収入 - (教育活動支出 - 減価償却費)	85,016		△ 54,587		△ 63,899		△ 91,252		△ 52,221			

	2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度	
基本金組入額	△ 10,657	1.6%	△ 22,327	4.0%	△ 4,723	0.9%	△ 9,580	1.7%	△ 3,536	0.5%
(第1号基本金組入額)	△ 10,042	1.5%	△ 20,452	3.7%	△ 2,591	0.5%	△ 107,671	18.6%	△ 101,836	14.9%
(第2号基本金組入額)							100,000	-17.2%	100,000	-14.6%
(第3号基本金組入額)	△ 615	0.1%	△ 1,875	0.3%	△ 2,132	0.4%	△ 1,909	0.3%	△ 1,700	0.2%
(第4号基本金組入額)	0		0		0		0		0	